

参 考 資 料

1. 用語解説
2. 策定過程
3. 作業部会レポート
4. 地域課題レポート
5. アンケート結果
6. 名簿

1. 用語解説

初出頁	用語	解 説
37	肢体不自由	上肢・下肢・体幹の機能の一部又は全部に障がい を有し、「立つ」、「座る」、「歩く」、「食事」、 「着替え」、「物の持ち運び」、「字を書く」等、 日常生活における動作が困難な状態のこと。
37	内部障がい	身体内部の臓器に障がいをもつことで、血液 循環、血液浄化、呼吸、排泄、消化、免疫（感 染防御）等、生命維持のための重要な機能が損 なわれていること。
41	成年後見	認知症、知的障がいその他の精神上の障がいによ り判断能力が不十分であり、契約等の法律行 為における意思決定が困難な人について、家庭 裁判所が認定した成年後見人・保佐人・補助人 がその判断能力を補い、本人の権利、財産等を 保護すること。
48	半田市ふくしまる ごと会議（略称『ふ くまる会議』）	重層的支援会議や生活困窮者支援会議など福 祉分野における複数の会議を合同開催するも ので、庁内・庁外の相談支援機関、関係機関等 が一堂に会し支援困難事例等に係る協議等を行 う。
48	CSW（コミュニティ ソーシャルワーカー）	コミュニティに焦点をあてた社会福祉活動を進 める者。地域において、支援を必要とする方 の生活圏や人間関係等環境面を重視した援助 を行うとともに、地域を基盤とする支援活動を 発見して支援を必要とする方に結びつけたり、 新たなサービスを開発したり、公的制度との調 整等を行ったりする。
50	ふくし人財	広く福祉活動に従事されている方のことを大 切な「資産」として捉え、「財」の字を用いた「ふ くし人財」と表現。一方、この計画では「介護 人材」という語も用いているが、この語は世間 一般に広く使用され、「材」の字を使うのが一般 的であるため、そのまま「介護人材」と表現。 この計画では「介護人材」を「ふくし人財」に 内包されるものとして扱っている。
54	社会福祉協議会	社会福祉協議会は社会福祉法に基づき都道府 県と市区町村に設置される、地域福祉の推進を 図ることを目的とする団体。社会福祉事業の企 画・実施、社会福祉活動への住民参加援助等を行 う。略して「社協」と呼ばれる。
55	更生保護サポート	保護司が関係機関と連携しながら更生保護活

	センター	動を行うための拠点。なお、「保護司」とは犯罪・非行により保護観察を受けることになった方に対し、その生活を見守り、様々な相談・指導を行う、法務大臣からの委嘱を受けた非常勤の国家公務員（実質的に市民ボランティア）、「更生保護」とは犯罪・非行をした方を地域の中で適切に処遇することにより、その再犯を防ぎ、非行をなくし、立ち直りを助けるとともに地域の犯罪・非行の予防を図る活動のこと。
55	要配慮者	（災害時の避難行動、避難生活等における）高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する方のこと。
55	災害時避難行動要支援者名簿	要配慮者のうち、災害が発生し、又は発生のおそれがある場合に自ら避難することが困難で特に支援を要する方について、その把握、避難支援、安否確認等を行うための基礎とする名簿で、市町村長が作成するもの。
55	個別避難計画	災害時の避難支援等の実効性確保を目指し、災害時避難行動要支援者名簿の登録者ごとに定める避難計画で、名簿記載事項のほか避難支援等実施者や避難場所等について記載するもの。
58	包括的・重層的・伴走的	ここで言う「包括的」は、社会福祉法第106条の4第2項第1号の「包括的」と同義であり、相談者の属性・世代・生活課題の内容にかかわらず全てひっくるめて受け止めるという意味で用いている。また、「重層的」は同条第1項の「重層的」と同義であり、相談支援、（社会的に孤立している方への）社会参加支援、（住民同士のささあいの関係性を育む）地域づくり支援等を一体的に行うという意味で用いている。また、「伴走的」は相談者に継続的に寄り添いながら本人の自立的な立ち直りを支援するという意味で用いている。
58	アウトリーチ	英語の「手を伸ばす」という意味で、困難な状況にありながら支援の必要性を自覚していない、又は相談意欲がなく自ら申し出ることのない方やその家族に対して、支援者が積極的に働きかけ、支援を届けること。
58	累犯（るいはん）	何度も罪を犯すこと。懲役に処せられた者が、刑の終了又は免除の日から5年以内にさらに有期懲役に処すべき罪を犯したとき、刑が加重されるもの（再犯及び三犯以上）。

※初出頁は、目次・図表・見出しを除く、本文中の初出の頁。

2. 策定過程

《令和3年度策定時》

時 期	項 目	主 な 内 容
令和元年12月 ～令和2年1月	市民アンケート調査の実施	・18歳以上の市民3,000人 を無作為抽出（回収率 32.7%）
令和元年5月 ～令和2年1月	《テーマ別》策定作業部会 （人財の確保・育成／暮らし の安心支援／防災・減災／就 労支援／支援困難対策）	・テーマ別に課題整理と対 策検討
令和元年6月 ～令和3年1月	半田市地域福祉計画策定コア 会議	・計画案について協議検討
令和2年 5月20日（水）	令和2年度第1回 半田市地域福祉計画策定庁内 検討会議（書面協議）	・基本目標及び施策体系に ついて
令和2年 6月2日（火）	令和2年度第1回 半田市地域福祉計画策定委員 会	・基本目標及び施策体系に ついて
令和2年 8月19日（水）	令和2年度第2回 半田市地域福祉計画策定庁内 検討会議	・計画素案について ・評価指標について
令和2年 10月13日（火）	令和2年度第2回 半田市地域福祉計画策定委員 会	・計画素案について ・ふくし課題プロジェクト 案について
令和2年12月2 日（水）～令和3年 1月4日（月）	パブリックコメントの実施	・受付意見数4件（2名）
令和3年 1月20日（水）	令和2年度第3回 半田市地域福祉計画策定庁内 検討会議（書面会議）	・パブリックコメントの意 見と回答について ・ふくし課題プロジェクト 案について
令和3年 2月9日（火）	令和2年度第3回 半田市地域福祉計画策定委員 会（書面協議）	・パブリックコメントの意 見と回答について ・ふくし課題プロジェクト 案について

「令和5年度中間見直し時」

時 期	項 目	主 な 内 容
令和5年5月 ～令和6年1月	ふくし課題プロジェクト (地域福祉計画見直し)	・ 見直し箇所、評価方法を 検討 ・ 実績の振り返りと自己評 価を実施 ・ 推進委員へヒアリング
令和5年 5月22日(月)	令和5年度第1回半田市地域 福祉計画推進コア会議	・ 中間見直しについて協議 検討
令和5年 6月6日(火)	令和5年度第1回半田市地域 福祉計画推進委員会	・ 中間見直しについて
令和5年 9月28日(木)	令和5年度第2回半田市地域 福祉計画推進コア会議	・ 中間見直しについて協議 検討
令和5年 10月13日(金)	令和5年度第2回半田市地域 福祉計画推進委員会	・ 中間見直しについて
令和6年 1月25日(木)	令和5年度第3回半田市地域 福祉計画推進コア会議	・ 中間見直しについて協議 検討
令和6年 2月6日(火)	令和5年度第3回半田市地域 福祉計画推進委員会	・ 中間見直しについて

人財の確保・育成作業部会レポート

(1)テーマ概要

人口構造等の変化（少子高齢化・労働力人口の減少・家族形態や地域社会の変化）に伴い不足する「人財」の確保・育成方法等について、協議を行った。

【“人財”の定義について】

本作業部会では、人財の定義を以下のとおり整理した。

【A】半田市民

市内外在勤者を含む半田市民

【B】ふくしを知っている方

「ふだんのくらしのしあわせ」を知っている方

【C】ふくしを支えている方(担い手)

ふくしを知り、地域活動等で活躍する方（ボランティア、にじいろサポーター、お助け隊等）

【D】ふくしの専門職（人手）

福祉事業所や社会福祉協議会等の職員

【E】ふくし外で活躍する方

福祉分野以外の地域活動を担う方や民間企業等の社員

【参考：これまでの施策を例に】

- ・ふくし共育＝【A→B】
- ・にじいろサポーター養成講座＝【A,B→C】

(2)テーマ課題

◆市民のふくし理解

- ・ふくしを「我が事」と感じ、理解を深める機会が少ない。
- ・ふくし分野に対するネガティブなイメージが大きい。
- ・ふくし共育の対象者に偏りがある。（ふくし共育が実施できていない世代がある）など
⇒キーワードは「人材の育成（市民全体の福祉力の向上）」

◇地域・事業所等の担い手、人手不足

- ・担い手養成講座（にじいろサポーター等）受講後のコーディネート等が課題である。
- ・地域で活躍する担い手が高齢化している。
- ・新たな担い手（学生や外国人、未就労者等）が、地域とつながる機会が少ない。
- ・教育、企業等、他の分野へのアプローチが不足している。など
⇒キーワードは「人財の確保（新たな担い手、人手の発掘）」



R1.7月～R2.2月にかけて全6回にわたり、委員の皆さんと話し合いました。



(3) 対策・取組

(2) **テーマ課題**や現計画で推進してきた事業を基に、次期計画で必要とされる対策・取組を以下①～⑤のセクションに分類し、検討した。

(詳細は以下の(案)参照)

◆市民のふくし理解

- ①地域福祉・ふくしの普及啓発
- ②ふくし共育の充実 ★

◇地域・事業所等の担い手、人手不足

- ③ふくし業界のイメージアップ★
- ④活動の共有・調整・コーディネート
- ⑤法人（企業・事業所）との協働 ★

★次期計画での優先事項（今後さらなる発展が求められる事業）

●当作業部会が考える今後の対策・取組（案）

◆市民のふくし理解

人財の推移例

①地域福祉・ふくしの普及啓発

例：【A→B】

- ・学生や外国人等すべての人が地域で生活しやすい「ふくし」の土壌づくり

②ふくし共育の充実★

例：【A,E→C】

- ・ふくし共育プログラムの発展
 - 幼児から社会人まで多世代を対象とした一連のプロセスをつくる。
 - 対象世代に合わせたテーマ、内容を設定する。
 - 多世代（地域の高齢者や子ども、保護者等）が交流できる仕組みをつくる。

◇地域・事業所等の担い手、人手不足

③ふくし業界のイメージアップ★

例：【A,B→C,D】

- ・福祉分野の地域活動や仕事に対する意識やイメージの向上
 - 学生や外国人、未就労者等に対し福祉の実態を伝えるイベントを開催する。

④活動の共有・調整・コーディネート

例：【B,E→C,D】

- ・地域活動者（サロン活動者やお助け隊等）の交流の場づくり
 - 地域活動の意識向上や情報交換を通して地域活動者の連携を深める。
- ・地域活動や福祉事業所での就労に繋がる仕組みづくり
 - にじいろサポーター等の講座受講者と地域活動の場とのマッチングを進める。
 - 福祉事業所等の活動希望者の登録制度をつくる。

⑤法人（企業・事業所）との協働★

例：【E→B,C】

- ・「ふくし」のプロモーション
 - 半田商工会議所と協力して、企業の現役世代向けのふくし共育（研修等）を実施し、定年後の地域交流や親の介護等、「ふくし」を我が事・身近なものとしてイメージしてもらう機会を設ける。
 - ふくし共育を受けた企業へふくしの認定証（マーク）を進呈する。
 - 地域と企業が一緒にできることを考える。

暮らしの安心支援作業部会レポート

少子高齢化の進展により高齢者の比率は年々増加し、また、生活困窮者等からの相談件数も増加傾向にあります。また、障がい者の「地域移行」として施設や病院ではなく地域で生活できるような取組も進められています。

そのため、今後、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすための「住まい」や「交通手段」の確保に係る支援がますます重要となってきます。

このようなことを背景に、この部会では、次の2つのテーマを中心にそれぞれ課題整理と対策検討を行いました。

1. 住宅確保要配慮者（注）の住まいに関すること

2. 交通弱者の移動に関すること



■検討経過

回 次	日 時	検 討 内 容
第1回	令和元年7月18日 【住まい①】	・市内の賃貸住宅は空室が多いが、大家は「借家人として困る人」の入居を敬遠しがち。 ・「大家にとって困ること」を整理した上で解決策を検討し、大家の理解を求めていく支援が必要。
第2回	令和元年9月12日 【住まい②】	 ・居住支援者である「見守り大家さん」や「愛知共同住宅協会」の方をゲストに迎え、それぞれの支援内容や課題、取組事例等について情報共有。 ・多くの大家が家賃滞納・単身者の死後対応・外国人のゴミ出し等に不安を抱いている。 ・様々な支援を活用すれば解決できる部分も多く、大家の理解・認識不足を解消するため半田市版「居住支援ガイドブック」の作成が必要。
第3回	令和元年11月5日 【住まい③】	・「愛知共同住宅協会」の理事・杉本氏をゲストに迎え、「名古屋市住宅確保要配慮者居住支援協議会」の委員として携わった「名古屋市居住支援ガイドブック」の作成経緯・利用方法等についてお話を伺った。 ・ガイドブックは支援ツール。名古屋市はアパート仲介業者を巻き込み、業者にもメリットのある仕組みを構築。ただし半田市は地元不動産業者とのパイプがある。その強みを活かすべきであるとのこと。
第4回	令和元年11月27日 【移動】	 ・半田市の巡回バス（ごんくるバス）の現状と今後のコミュニティバス導入の方向性等について確認。 ・ごんくるバスの利用者は着実に増えており、市民に定着しつつある（全車両で車いす利用可）。 ・公共交通空白地帯で「地区バス会」が立ち上がり、住民主体のコミュニティバス導入協議が進んでいる（導入車両が車いす利用不可の場合の代替手段も検討）。 ・そのほか、高齢者の免許返納に対する助成制度等、対象者の属性に応じた支援施策の充実が必要。

■課題と対策

1. 住宅確保要配慮者（注）の住まいに関すること



【課題】

- ・賃貸住宅の貸主（大家さん）は、単身の高齢者、家賃滞納のおそれのある方、日本の生活ルールを知らない外国人などの入居を敬遠しがちです。
- ・身元保証人や連帯保証人がいないと、アパートなどの賃貸借契約を結ぶことが困難です。

（注）住宅確保要配慮者とは、低所得者、高齢者、障がい者、子どもを養育している者、被災者その他の住宅の確保に特に配慮を要する方で、住宅を自力で確保することが難しい方やその確保に支援が必要な方のことを言います。

【対策】

- ・身元保証人などがいないときの対応や、入居者が亡くなったときの対応、外国人の受入れに関することなどを盛り込んだ「（半田市版）居住支援ガイドブック」を作成し、住宅確保要配慮者や大家さん、賃貸物件仲介業者などに配布、活用促進を図ります。
- ・入居者の暮らしに目配りし、困ったときには手を差し伸べる「見守り大家さん」の養成に努めます。
- ・居住支援関係機関の連携強化を図ります。



2. 交通弱者の移動に関すること

【課題】

- ・鉄道や路線バスなど公共交通の空白地帯に暮らす高齢者や障がい者などは、通院や買い物などのための交通手段が乏しく、移動が困難です。
- ・高齢運転者による死亡事故等発生件数が増えており、社会問題となっています。



【対策】

- ・公共交通空白地帯におけるコミュニティバス導入を目指します。
- ・高齢者の免許返納を促進するとともに、各種移動支援の充実を図ります。

防災・減災作業部会レポート

(1)テーマ概要

大規模災害時、半田市内の要配慮者（高齢者、障がい者、乳幼児、その他配慮を要する方）を含むすべての方が安心して暮らすことのできるまち＝災害に強いまちとなるための方策について、協議を行いました。

(2)テーマ課題

テーマに沿って次の2点を重点に話し合いました！

- ① 日頃から地域の中で顔の見える関係をつくることで、いざという時、住民同士が互いに支え合うことのできる体制づくりが必要。 →住民同士の減災力の強化！
- ② 専門性の高い支援が必要な方への支援調整が必要。 →支援の調整！

(3)対策・取組(協議内容等詳細は次ページにて)

○住民同士の減災力の強化について、事例検証

半田中学校を避難所とする防災訓練（半田市総合防災訓練：令和元年11/16実施）で、中学生が地域の要配慮者宅を訪問。あいさつや自己紹介のあと、ふだんの生活の様子を聞く中で、日頃や災害時に、「自分たちができること」を考えました。

また、事前（11/6、11/14実施）に、「ふくし共育」を取り入れ、活動前後には、アンケート調査を行い、中学生の意識にどのような変化がみられるか検証しました。

⇒活動の振り返りやアンケート結果から、中学生が「地域には子どもから高齢者まで多くの住民がいること」や「日頃から顔を知っていることが、いざという時の行動（する勇氣）につながること」、「地域で活躍するためにもまずは自分の身を守ること」等を学んでいることが分かりました。

⇒地域とのつながり・日頃の支え合いの必要性を、「災害」を視点に伝えられることが実証できました。



作業部会メンバーも中学生と一緒に要配慮者宅を訪問しました。

「災害に強いまち」に向けて

- ① 「ふ・く・し」(*)を理解することで、自分の住み慣れた地域や周辺の住民に対し、日頃から目を向け、関心をもつ必要がある。
- ② 学んだ「ふ・く・し」を実践し、住民同士の顔のつながりや支え合いに活かすことのできる取組を推進（実施・継続・拡大）する必要がある。
- ③ 地域（地域住民、自治会、民生委員、福祉事業所等）と要配慮者（家族含む）の顔をつなぎ、支援方法等を事前検討・調整する（場づくりを進める）必要がある。
- ④ 避難所等での要配慮者の生活支援（個室空間・福祉スペースの確保や福祉避難所の整備（協力）、備品・備蓄の充実等）を行う必要がある。
- ⑤ 市全域での支援体制が調整困難な場合を想定し、福祉事業所等が連携し、地域（エリア）ごとで連携した取組を行う（場づくりを進める）必要がある。
- ⑥ 避難所等での支援者不足を想定し、地域のボランティアや福祉専門職等の発掘・事前調整、支援者派遣事業所の整備（協力）を行う必要がある。
- ⑦ 市内・同地域内では支援体制の調整が困難である場合を想定し、市外・県外の福祉事業所等とのネットワークづくりを進める必要がある。

※「ふ・く・し」とは…すべての人が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、困っている人がいたら「自分ができること」を考え実行することで、互いに支え合って共に生きること。

○ふくし×防災・減災で災害に強いまちづくりを進めるための現状と課題

「(2) テーマ課題」に対する「(3) 対策・取組」を推進するため、本市の現状分析と今後の課題共有等を行いました。

地域の取組

【現状】それぞれの対象に合わせた防災教育や出前講座、講演会の開催や自主防災訓練の実施。

【課題】住民参画の不足（地域の防災訓練、防災講座受講）。防災教育とふくし共育の連携。
特定地域のみでの要配慮者と地域の関係づくりの実施。

避難行動要支援者支援制度

【現状】避難行動要支援者名簿の作成及び避難支援等関係者^(※)への情報提供。

※自治区、民生委員、半田市社会福祉協議会、消防署、警察署

【課題】地域や自主防災会、民生委員、福祉事業所等との支援に係る役割分担。（地域で支援する方、福祉的な支援をする方等、対象者ごとの検討・整理）

事業所等ネットワーク

【現状】亀崎中学校区、半田中学校区、半田南部において、福祉事業所等連携ネットワーク（多機関連携会議）を構築し、ふくし相談窓口の開設等、各ネットワークにて共通課題について協議。

【課題】ネットワークを構成する事業所範囲が異なる。連携することで解決を図る仕組みづくり。
市全体の取組方針等を協議するネットワーク（場）づくり。市外とのネットワークづくり。

福祉避難所・支援者派遣事業所

【現状】災害時、要配慮者等が安心して避難や生活することのできる避難所体制や、避難所等で要配慮者等の支援に従事する職員を派遣してもらう協力事業所の体制を整備。

【課題】本格運用時のルールづくり。備蓄等の準備。地区・地域性の配慮。福祉入会等の整備。

○今後できるとよいこと

実施主体	第1層（市全域）	第2層（中学校区）	第3層（小学校区以下）
住民		近隣、地域と顔のつながる関係づくり。 ふくし共育や地域防災訓練等の参加・協力。	
事業所	防災・減災の取組方針等を検討し、推進する場への参加。 サービス利用者の情報把握と支援体制整備。 市外、県外事業所との連携体制整備。	ふくし共育や地域防災訓練等の参加・協力。	
社協	防災教育とふくし共育が連携した取組の構築。 防災・減災の取組方針等を検討し、推進する場への参加。 市内外のボランティアや福祉専門職等の発掘・受入体制整備。	防災教育とふくし共育が連携した取組の実施・拡大。 ふくしを地域で実践する場づくり。 各地区のネットワークづくり。	
行政（関係課）	防災教育とふくし共育が連携した取組の構築。指定避難所等における福祉入会等の確保、整備。 （地域福祉課・高齢介護課・防災交通課・学校教育課） 防災・減災の取組方針等を検討し、推進する場づくり。市内外のボランティアや福祉専門職等の発掘・受入体制整備。対象者（要配慮者）の安否確認含む支援の役割分担。 （地域福祉課・高齢介護課・防災交通課）	ふくしを地域で実践する場づくり。 （地域福祉課） 要配慮者が地域住民や事業所、企業等とつながる場づくり。 （地域福祉課・高齢介護課、防災交通課）	
		各地区のネットワーク等を活用した福祉避難所や支援者派遣事業所等の体制整備。 （地域福祉課・高齢介護課）	対象者（要配慮者）を地域へ知ってもらう取組づくり。 対象者（要配慮者）と支援者のマッチング。 （地域福祉課・高齢介護課）

就労支援作業部会レポート

(1) 概要

生活困窮者・高齢者・障がい者・ひとり親家庭の方などで、就労に困難を抱える方が、自立した社会生活を営むことができるよう、就労支援の在り方等について関係者と協議を重ね、課題整理と対策検討を行いました。

■検討過程

【第1回部会】 令和元年7月31日

ハローワーク、シルバー人材センター、就労支援を行うNPO法人その他支援機関の方たちと就労前・就労中など支援段階ごとの課題や成功事例・困難事例などについて情報共有・意見交換を行いました。

【第2回部会】 令和元年10月31日

大企業から地域密着型の市内事業所まで、多業種多様な企業の方たち(10社)と雇用者側の視点での課題や柔軟な働き方の導入、各種サポート体制等について情報共有・意見交換を行いました。

(2) 課題

上記から支援対象者の特徴として次の課題が浮かび上がりました。

- ・不規則な生活リズム、不安がちなメンタル。
- ・就労体験・社会常識・コミュニケーション能力等の不足。
- ・家庭に問題がある。就労意欲がない。
- ・(ひとり親)子育てとの両立が困難。etc

左記を踏まえ、次のように課題を整理しました。

重点的

- ①家庭・生活・自立心等の立直しが必要
- ②適性・能力を見極める支援が必要
- ③適性・能力と職種のマッチングが必要
- ④就労定着・継続就労支援が必要

(3) 対策・取組

上記課題に対し次のように取り組みます。

A 地域福祉活動としてできる支援

- ・ふれあい施設、お助け隊、地域サロン等での活動体験(疑似就労)受入れ
- ※上記活動を通じて生活リズムを整え、人と接することに慣れ、不安を軽減させ、就労意欲・責任感を醸成することで就労に向けた準備とする。



B 行政等による支援(制度的支援)の充実

- (1)生活困窮者自立支援事業(自立相談支援・就労準備支援・住居確保給付金など)
- (2)障がい者地域生活支援事業(就労支援)
- (3)ひとり親家庭等自立支援対策事業
- (4)(高齢者)就業機会確保事業

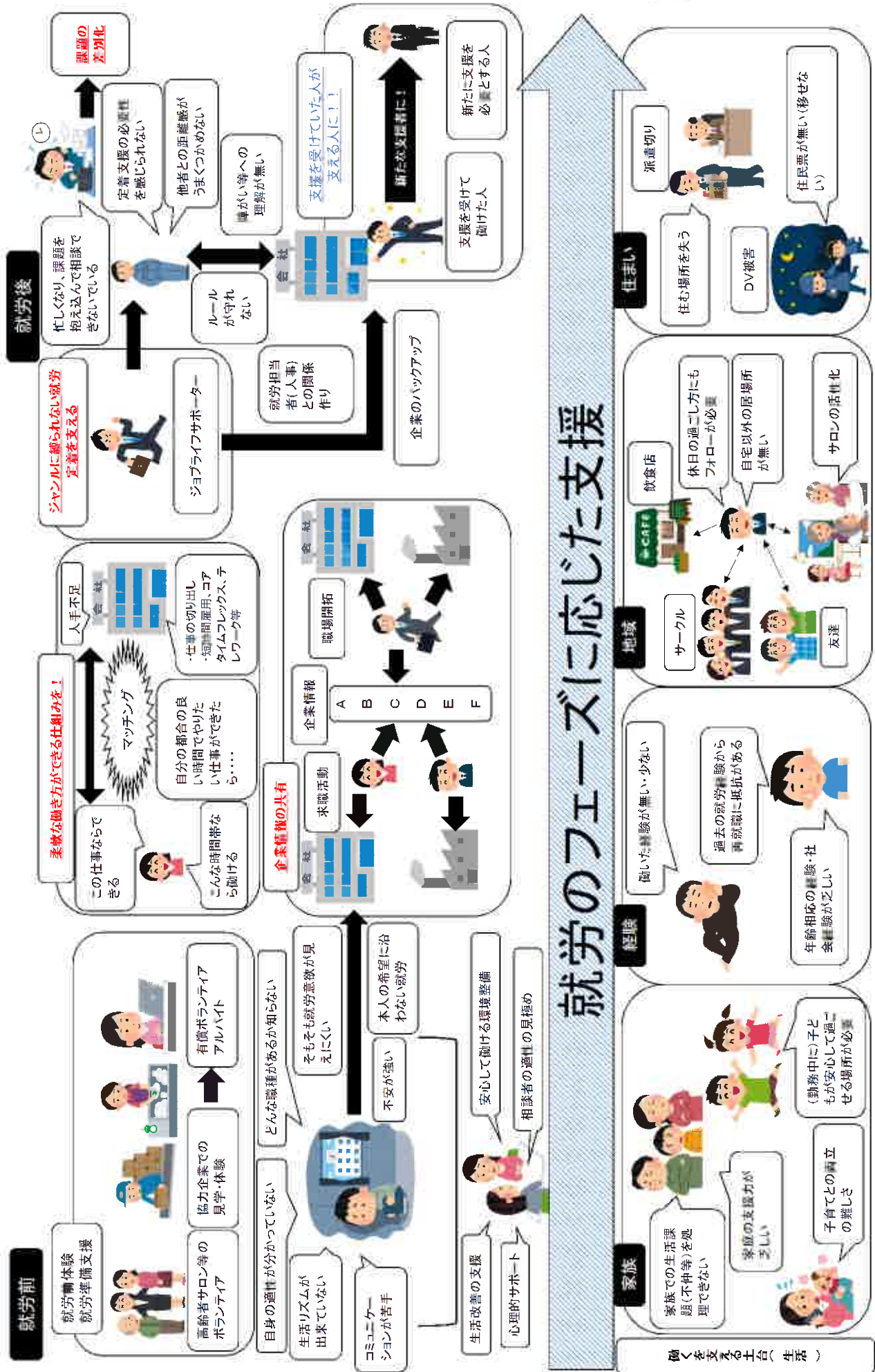
【第3回部会】 令和元年12月20日

ふれあい施設、お助け隊、地域サロンの方たちと疑似就労体験受入れについて情報共有・意見交換を行いました。

まずはココから

⇒市・社協等がしっかりサポートしながら本格導入を目指します!!





支援困難対策作業部会レポート



◆近所に気になる家庭がいるけど、誰に相談しよう…

◆自分がこれからどうしていけばいいのか心配だ…

(1) テーマ概要

第一次地域福祉計画を策定時と比べ、ひきこもり・支援拒否・虐待・生活困窮など、法律や制度の隙間が原因で支援に繋がらなかったり、複雑化した課題を抱えるケースが増えてきました。部会では、具体的事例を元に「要素」と「共通課題」を抽出し、支援困難に陥らないための予防的支援について検討を重ねました。



福祉的ニーズの発生自体を予防することは難しいけれど、「ニーズのある人を支援に繋げること」「ニーズを大きく・複雑化しないために予防すること」は可能です。制度に繋がらないことから派生する、解決に至らない経験が孤立や次世代へ連鎖しないような仕組みの構築が今後必要となってきます。

(2) テーマ課題

ひきこもり、支援拒否、虐待、生活困窮など支援困難と言われる事例の背景を整理していくと幾つかの共通する特徴が見られました。

◆当事者側の課題として・・・

- ①当事者自身、困りごとに気付きにくい。
- ②地域から孤立しやすく情報が届きにくく、頼れるところ(人)、選択肢が極端に少ない。
- ③相談における失敗体験がその後の支援拒否に繋がり、悪循環に陥りやすい。
- ④問題の複雑化、長期化により解決する意欲や力が低下しやすく、先送りしてしまう。
- ⑤相談する力、助けられ上手になる力が身についていない。

◆支援者側の課題として・・・

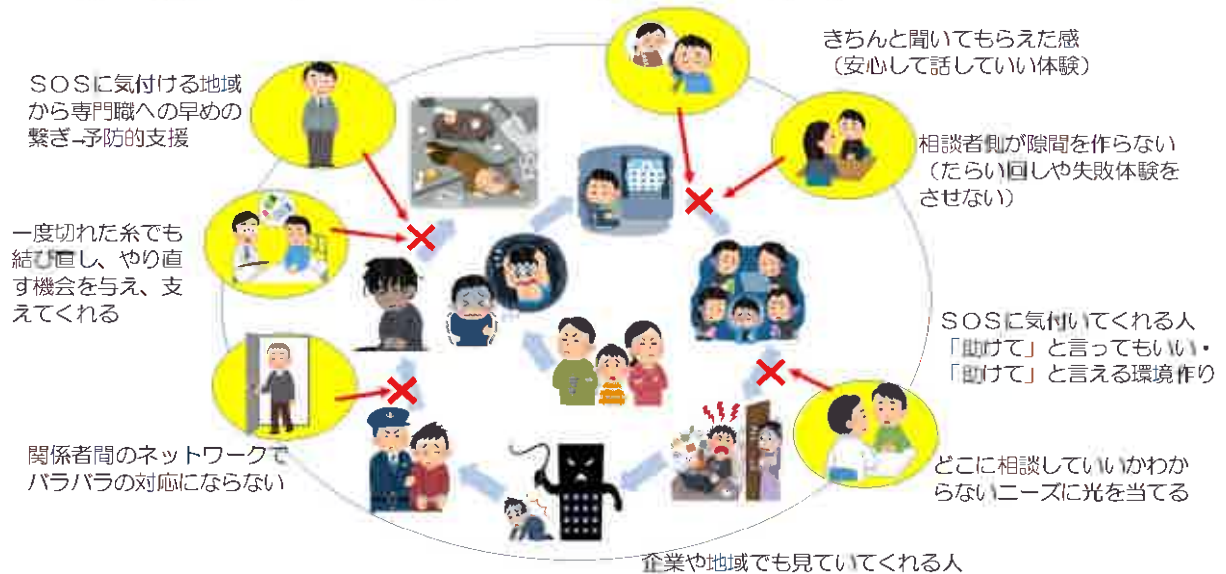
- ⑥支援者側の専門領域の範疇で相談にのることで人為的な隙間を作っている。
- ⑦制度の狭間とライフステージの狭間があり、介入するタイミングを逃してしまう。
- ⑧生活場面における地域での気付きのタイミングと専門職の期待値にズレがある。

(3) 対策・取組

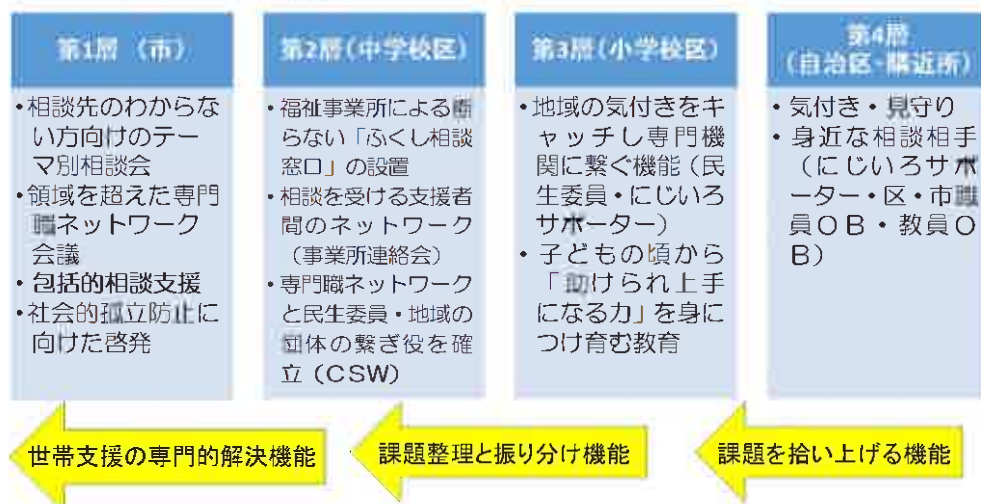
このマイナスのサイクルを断ち切るべく、相談の必要な方へ情報の届く仕組みの構築のために①気付き、発見機能、②身近な相談と繋ぐ機能、③隙間をつくらぬネットワーク機能を階層ごとに対策について検討しました。

保護司や学校教育課相談員からのヒアリングと、地域と専門職の発見機能について市職員・民生委員・地域の方・事業所や相談支援の専門職の「気付きの段階のズレ」に着目しながら議論し、階層ごとにできることを整理していきました。

《支援困難のサイクルを断ち切るための予防的支援》



《階層ごとの相談支援体制》



《部会からの提案事項》

相談支援のバリアフリーを目指して～隙間のできにくい「ふくし文化」の醸成～

- ① 地域の発見・気付きから専門的相談支援までの階層別・課題別の相談機能の段差を解消します。
- ② 福祉に携わるあらゆる人が、自身の業務・専門を超えて相談支援を行う体制づくりを目指します。
- ③ 子どもから高齢者までライフステージによる対象・制度の狭間への対応ができるよう、領域を超えた専門職ネットワーク会議等を通して、多職種連携におけるチームアプローチや世帯支援を進めます。
- ④ すぐに解決しない課題への伴走と具体的な課題解決のための支援者間のリレーで、地域の住民・専門職の力を結集し、効果的な支援体制が構築できるような「包括的相談支援体制」整備を目指します。

地域の概況・課題等
亀崎小学校区

(令和元年9月1日現在)				
人口	地 域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	11,020人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,561人	14.2%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	6,791人	61.6%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,668人	24.2%	28,768人	24.0%
要介護認定者	654人	5.9%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	434人	3.9%	4,830人	4.0%
外国人	延べ485人	—	延べ5,571人	—
世帯	408人	3.7%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	4,533世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	1,174世帯	25.9%	12,368世帯	23.9%

- (1) 地域の概況
- (2) 地域の課題等
- 地域サロン等での住民の関わり等を基に地域課題を抽出しました。
- ・古くからある拠点を活用する高齢者や山車組を通しての地域のつながりは強いが、若い世代になるに従い、これまでより希薄になりつつある。
 - ・高齢化に伴い、困りごと（認知症、独居等）を抱える高齢者が増加している。
 - ・認知症の対応が分らず、これまでの関係が続けづらいつと感じる方が増加している。
 - ・独居高齢者等の困りごとをささえる人材の高齢化が進んでいる。
 - ・老人クラブが衰退化し、地域とのつながりが希薄になってきている。

地域の概況・課題等
有脇小学校区

(令和元年9月1日現在)				
人口	地 域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	2,498人	100.0%	119,987人	100.0%
16～64歳	384人	15.3%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	1,337人	53.5%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	777人	31.1%	28,768人	24.0%
要介護認定者	173人	6.9%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	148人	5.9%	4,830人	4.0%
外国人	延べ148人	—	延べ5,571人	—
世帯	23人	0.9%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	993世帯	100.0%	51,741世帯	100.0%
	341世帯	34.3%	12,368世帯	23.9%

- (1) 地域の概況
- (2) 地域の課題等
- 地域特性が自治区で異なるため、それぞれの自治区単位で行う地域行事やサロン、また、自治区の役員会等に参加し、地域課題の集約を行いました。
- 有脇一区…「つながり」の強い地域性。
 - ・困りごとについては「家族・親族で解決する」という認識が強い。そのため、近隣のことを気にかけてはいるが、早い段階から地域間が連携して支援を行うことは難しい。
 - ・商店や病院等が少なく、車に乗れない高齢者にとっては生活しづらい。
 - 緑ヶ丘区…市営住宅は入り人が多く、若い世代は一時的な遷家、高齢者等は終の棲家とする場合が多い。
 - ・自治区等が行うイベントにも住民の参加が少なく、顔のつなげる関係を作ることが難しい。
 - ・子どもが少ないため、同年代の友だちが地域で作りづらい。

地域の概況・課題等

横川小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	11,094人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,587人	14.3%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	7,011人	63.2%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,496人	22.5%	28,768人	24.0%
要介護認定者	544人	4.9%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	376人	3.4%	4,830人	4.0%
外国人	延べ569人	—	延べ5,571人	—
世帯	733人	6.6%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	4,697世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	1,031世帯	22.0%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域課題についての聞取りや意見交換等を行いました。

○外国籍の方が運営する店舗での外国籍の方の相談等支援について

- ・市役所や学校からの文書等の翻訳を頼まれる。
- ・身近なトラブル（ごみ出し等）の相談がある。
- ・外国籍の方は市役所等の相談窓口を知らないことが多い。

○外国籍の方との地域交流について

- ・市営大高住宅内では、言語の違いによるコミュニケーションが課題。住民のみなさんが自分たちでできる取組の検討が必要と考えている。

○地域での多世代交流について

- ・ふくし共育をきっかけに、障がい、高齢者等地域で活躍する方が横小まつりへ作品展示を行い、地域と子ども、保護者等がつながる機会となった。

○地域の住民同士の助け合いについて

- ・地域が抱える困りごとに対して、住民同士が協力しながら、解決への取組を実施することができた。

地域の概況・課題等

乙川小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	11,198人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,564人	14.0%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	6,955人	62.1%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,679人	23.9%	28,768人	24.0%
要介護認定者	606人	5.4%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	473人	4.2%	4,830人	4.0%
外国人	延べ531人	—	延べ5,571人	—
世帯	551人	4.9%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	4,746世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	1,112世帯	23.4%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域課題についての聞取りや意見交換等を行いました。

○身近な地域の居場所について

- ・家用車の運転ができなくなった場合等を想定し、歩いていける範囲内に、気軽に参加することのできる居場所が欲しい。
- ・子育て世代等誰もが気軽に参加しやすい雰囲気づくりを進めたい。
- ・認知症の方等が地域の方と一緒に活躍できる場となるとよい。

○地域での見守りについて

- ・認知症によるひとり歩き高齢者等について、身近な地域住民や地域サロン等で活躍する方が日頃から心配し見守りを行っている。
- ・乙川交番でも、地域とともに日頃から気にかけて、話をしたり相談を受けたりしながら見守りを行っている。
- ・必要があれば専門機関等へつないでもらえるような地域づくり、顔のつながる関係づくりが進んでいる。

地域の概況・課題等

乙川東小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	8,694人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,379人	15.9%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	5,244人	60.3%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,071人	23.8%	28,768人	24.0%
要介護認定者	398人	4.6%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	357人	4.1%	4,830人	4.0%
外国人	延べ383人	—	延べ5,571人	—
世帯	465人	5.3%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	3,620世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	828世帯	22.9%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

令和元年7月30日(火)、10月28日(月)の2回、平地公民館において「ふくし井戸端会議」を開催し、この地域の課題について話し合いました。地域の居場所に関する課題等が挙げられ、公民館長や地域の方と引き続き話し合いを継続しています。

- ・身近な地域に気軽に集まることのできる居場所が少なく、地域の方とのつながりが大切になりたい。
- ・地域サロン等に顔を出してもらえない方が参加しやすい工夫を考えたい。
- ・若い世帯が増えているが、多世代間の交流は少ない。
- ・外国籍の方が増えており、コミュニケーション方法等、今後の対応を検討したい。
- ・道幅が狭く歩行者が危ない場所等があり、地域での見守りが必要。
- ・バスが通っておらず、買い物や病院等への移動が大変。
- ・空き家が増えてきており、管理等が課題。
- ・空き家を有効活用した取組を検討したい。

地域の概況・課題等

さくら小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	6,192人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	787人	12.7%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	4,090人	66.1%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	1,315人	21.2%	28,768人	24.0%
要介護認定者	302人	4.9%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	208人	3.4%	4,830人	4.0%
外国人	延べ292人	—	延べ5,571人	—
世帯	671人	10.8%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	2,794世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	552世帯	19.8%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

令和元年9月から11月にかけて、地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域課題についての聞き取りや意見交換等を行いました。

- ・サロンの参加者や地域の担い手等の高齢化
- ・地域での居場所や相談先が小学校区内に多数あるが相談役が高齢化している。
- ・クリニック(町医者)が少ない。
- ・外国人の増加に伴う対応ができていない。
- ・移動手段があまりない。(車が必要)
- ・区の行事が多い(瑞穂区)ので、参加すれば顔なじみになるが、参加しないと地域の人の土の関わりが少ない。



地域の概況・課題等 岩滑小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	7,870人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,101人	14.0%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	4,684人	59.5%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,085人	26.5%	28,768人	24.0%
要介護認定者	445人	5.7%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	350人	4.4%	4,830人	4.0%
外国人	延べ375人	—	延べ5,571人	—
世帯	206人	2.6%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	3,304世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	854世帯	25.8%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

令和元年8月から9月にかけて、地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域課題についての聞き取りや意見交換等を行いました。

- ・サロン実施場所や相談先等地域の居場所への移動手段が少ない。
- ・新しい住人との関わりが少ない。
- ・地域のイベント等若い世代の参加が少ない。
- ・困っている人を把握しているが、関わりがわからない。
- ・自分が困っていても、身内で解決しようとする傾向がある。(頼りたがらない人もいる)



地域の概況・課題等 雁宿小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	7,480人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,092人	14.6%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	4,482人	59.9%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	1,906人	25.5%	28,768人	24.0%
要介護認定者	431人	5.8%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	285人	3.8%	4,830人	4.0%
外国人	延べ282人	—	延べ5,571人	—
世帯	163人	2.2%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	3,267世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	856世帯	26.2%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

令和元年7月から10月にかけて、地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域の課題等についての聞き取りや意見交換を行いました。

- ・高齢者や障がい者の中には、困りごとがあってもどこに相談していいかわからない人が多い。
- ・(何らかの支援が必要でも) 民生委員や支援員などを受け入れない人もいる。
- ・(地域サロン等は) 知り合いがいないと参加しづらい。
- ・同じ町内でも顔見知りでない人がたくさんいる。
- ・せめて隣人とのつながりが必要である。



地域の概況・課題等 半田小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	8,896人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	1,135人	12.8%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	5,569人	62.6%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	2,192人	24.6%	28,768人	24.0%
要介護認定者	565人	6.4%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	408人	4.6%	4,830人	4.0%
外国人	延べ404人	—	延べ5,571人	—
世帯	289人	3.2%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	4,114世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
高齢者のみの世帯	953世帯	23.2%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

令和元年8月から10月にかけて、地区内で活動されている地域サロン等を訪問、「ふくし井戸端会議」として地域の課題等についての聞き取りや意見交換を行いました。

- ・(困りごとがあっても)わざわざ市役所には相談に行かない。
- ・(困っている人を見掛けでも)自分が関わっているのか分からない。声を掛けようか迷う。
- ・(発達に課題のある子は)声掛けでバニックになることもある。声掛けが常に良いとは限らない。
- ・(地域サロン等は)誘ってくれる人がいないと参加しづらい。



地域の概況・課題等 宮池小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	16,061人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	2,377人	14.8%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	10,376人	64.6%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	3,308人	20.6%	28,768人	24.0%
要介護認定者	799人	5.0%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	555人	3.5%	4,830人	4.0%
外国人	延べ623人	—	延べ5,571人	—
世帯	265人	1.6%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	6,767世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
高齢者のみの世帯	1,433世帯	21.2%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

宮池小学校区では、令和元年7月～10月に「ふくし井戸端会議」を開催し、この地域の課題について話し合いました。また、自治区やサロン、老人会等へ出向き、直接聞き取りを行いました。

- ・区画整理以降転入者が増え、市内でも比較的高齢者世帯の割合が低い地域であり、現時点では支援を必要としない住民が多いため、住民同士の関わり合いが少ない。そのため、若い世代が高齢者になったときの次世代の地域躍進の担い手不足が懸念される。
- ・支援者から見ると支援が必要な方でも、そのことに気付いておらず支援につながらないことがある。
- ・サロン等の地域住民の居場所が少ない。

地域の概況・課題等 成岩小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	7,002人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	979人	14.0%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	4,162人	59.4%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	1,861人	26.6%	28,768人	24.0%
要介護認定者	527人	7.5%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	379人	5.4%	4,830人	4.0%
外国人	延べ352人	—	延べ5,571人	—
世帯	166人	2.4%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	3,145世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	858世帯	27.3%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

成岩小学校区では、令和元年7月～10月に「ふくし井戸端会議」を開催し、この地域の課題について話し合いました。また、自治区やサロン、老人会等へ出向き、直接聞き取りを行いました。

- ・認知症カフェやサロン、子ども食堂といった地域住民の居場所はあるものの、本来必要とする(来てほしい)住民に情報が届いていない。
- ・何かしらの支援が必要と思われる住民が、福祉サービス等を拒否し、支援に繋がらないことがある。伴走的な支援ができると良い。
- ・居場所や相談先に関する効果的な情報提供方法、団体同士で情報交換できる場作りの検討が必要。
- ・海拔が低い地区があるが自主防災組織がないため、要支援者への避難行動支援の方策が必要。

地域の概況・課題等 花園小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	15,342人	100.0%	119,987人	119,987人
16～64歳	2,183人	14.2%	16,964人	14.1%
65歳以上(高齢者)	9,840人	64.2%	74,255人	61.9%
一人暮らし高齢者	3,319人	21.6%	28,768人	24.0%
要介護認定者	777人	5.1%	6,845人	5.7%
障がい者手帳取得者	473人	3.1%	4,830人	4.0%
外国人	延べ690人	—	延べ5,571人	—
世帯	242人	1.6%	4,296人	3.6%
高齢者のみの世帯	6,763世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
	1,427世帯	21.1%	12,368世帯	23.9%

(2) 地域の課題等

花園小学校区では、地域サロン等へ直接出向き、平成30年度に実施したささえあい活動計画策定に係るアンケートのフィードバックをしながら、この地域の困りごとや居場所について情報収集・聞き取りを行い、地域課題等について抽出しました。

- ・地域内で世代交流をしたり、高齢者のボランティア活動が盛んであったりと、自主的に地域住民同士でささえあふ体制がある地区。そのため「どのようにささえあっているか」の実情把握が難しく、課題が見えづらい。
- ・高齢者によるクラブ活動は盛んであるが、活動に参加していない、できていない高齢者の居場所や日頃の活動の把握が難しい。新規参加者がおらず、定年退職した世代が活動の場を探している様子がえられる。
- ・名鉄線の西側と東側とで世帯数や地域活動場所に差があり(西側が盛んである)地区によっては子どもや高齢者の居場所がない。

地域の概況・課題等

板山小学校区

(1) 地域の概況

(令和元年9月1日現在)				
人口	地域	構成比	市全体	構成比
15歳以下	835人	12.6%	16,987人	14.1%
16～64歳	3,714人	55.9%	74,255人	61.9%
65歳以上(高齢者)	2,091人	31.5%	28,768人	24.0%
一人暮らし高齢者	624人	9.4%	6,845人	5.7%
要介護認定者	384人	5.8%	4,830人	4.0%
障がい者手帳取得者	延べ437人	—	延べ5,571人	—
外国人	114人	1.7%	4,296人	3.6%
世帯	2,998世帯	100.0%	51,741世帯	51,741世帯
高齢者のみの世帯	949世帯	31.7%	12,368世帯	23.9%

※15歳以下の構成比が全小学校区で一番低く、65歳以上の構成比が全小学校区で一番高い

(2) 地域の課題等

板山小学校区では、地域サロンや老人会へ直接出向き、平成30年度に実施したささえあい活動計画策定に係るアンケートのフィードバックをしながら、この地域の困りごとや居場所について情報収集・聞き取りを行い、地域課題等について抽出しました。

- ・高齢者世帯数は市内で一番多いため、認知症予防や防災減災対策等、高齢者向けのふくし井戸端会議等、引き続き対策していく必要がある。
- ・高齢者人口に比べ、15歳以下の若者人口は全小学校区で一番低いため、将来の地域をささえる担い手不足が懸念される。
- ・高齢者になり、車に乗れなくなると買い物・通院が不安な地区がある。
- ・地域に根差した高齢者・障がい者施設があり、ふくし井戸端会議では認知症理解に努める等、福祉分野に強いまちづくりに取り組んでいる地域。こういった情報を知らない高齢者や障がい者に向けた有効的な情報提供の方策が必要。

「地域の課題等」集計表

No.	課題類型	亀崎	有脇	乙川	横川	乙川東	半田	さくら	岩滑	雁宿	成岩	宮池	板山	花園	計
1	身近に居場所がない・少ない			1	1	1						1		1	5
2	高齢者等の移動手段（買い物・通院・サロン等）		1			1		1	1				1		5
3	地域のつながりが希薄	1						1	1	1					4
4	ふくし人財の高齢化	1						1				1	1		4
5	要支援だが支援を受け入れない・つながらない									1	1	1			3
6	外国人の増加に伴うトラブル等				1			1							2
7	サロン等に参加しづらい					1	1								2
8	困りごとを家族以外に相談しない		1						1						2
9	困りごとの相談先が分からない（外国人・高齢者・障がい者）				1					1					2
10	困りごとを市役所に相談しない						1								1
11	要支援者に相談先・居場所等の情報が届いていない										1		1		2
12	地域行事への住民参加が少ない		1						1						2
13	地域活動に参加しない方の実情把握が困難													1	1
14	多世代交流がない・少ない					1									1
15	認知症高齢者の増加	1													1
16	単身高齢者世帯の増加	1													1
17	高齢者が多く認知症対策・防災対策が必要												1		1
18	海抜が低いのに自主防災組織がない										1				1
19	ささえあいの実情把握が困難													1	1
20	空き家の増加					1									1
21	道幅が狭く歩行者が危ない					1									1
22	子供が少なく地域で友達を作りづらい		1												1

アンケート結果

第2次半田市地域福祉計画策定
市民アンケート調査

令和2年3月
半田市

I 調査の概要

1 調査の目的

第2次半田市地域福祉計画の策定にあたり、市民意識を調査して基礎資料を得ることを目的としています。

2 調査対象

18歳以上の市民3,000人を対象に無作為に抽出しました。

3 調査期間

令和元年12月17日に発送し、令和2年1月10日を投函締切としました。

4 調査方法

郵送配布、郵送回収

5 回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
市民アンケート調査	3,000票	982票	32.7%

6 調査結果の表示方法

- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を除いているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目を組み合わせて分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表などを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

目次

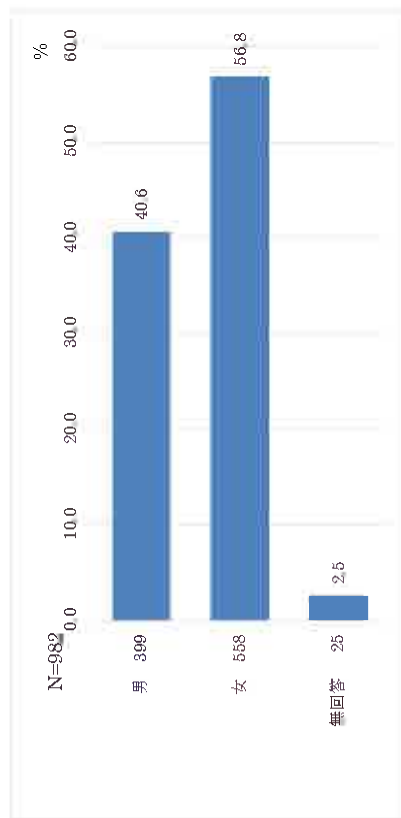
I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査対象	2
3 調査期間	5
4 調査方法	18
5 回収状況	37
6 調査結果の表示方法	42
II 市民アンケート調査結果	46
1 回答者自身について	2
2 日常生活について	5
3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について	18
4 災害時における助け合いについて	37
5 地域の課題について	42
6 半田市地域福祉計画の重点施策について	46

参考資料（アンケート調査票）

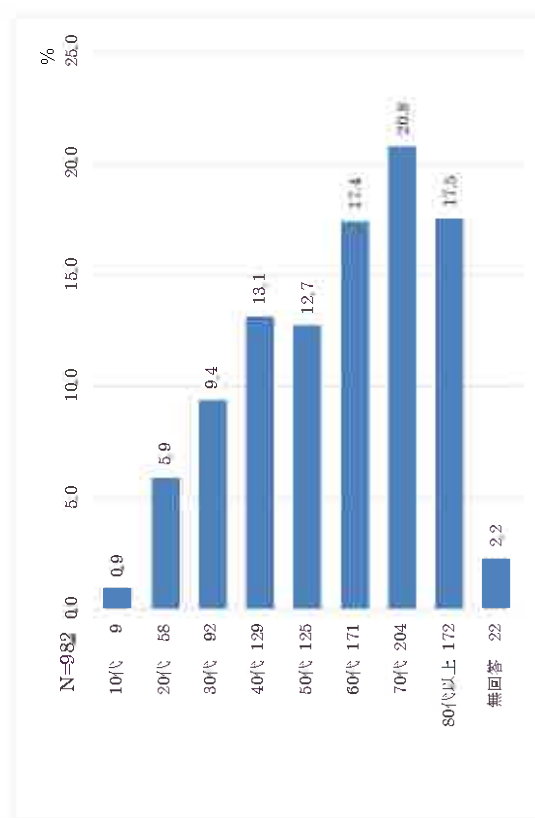
Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者自身について

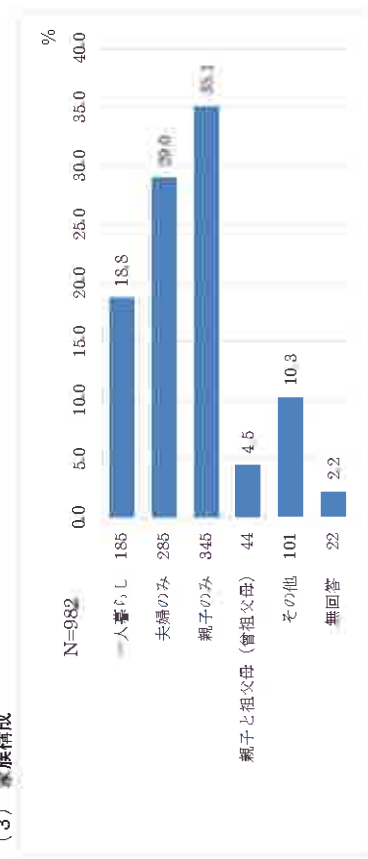
(1) 性別



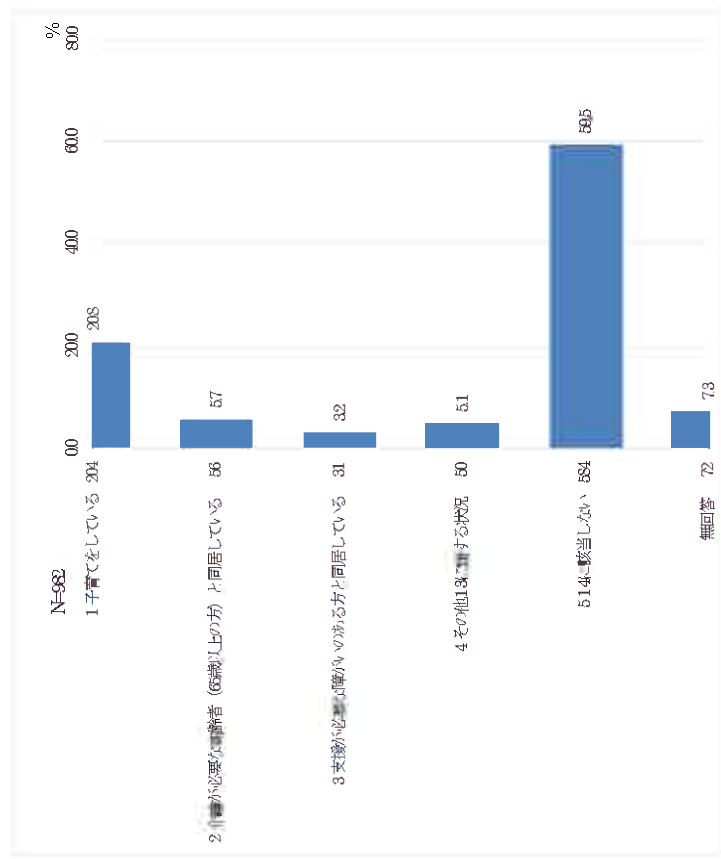
(2) 年齢（令和2年1月1日現在の満年齢）



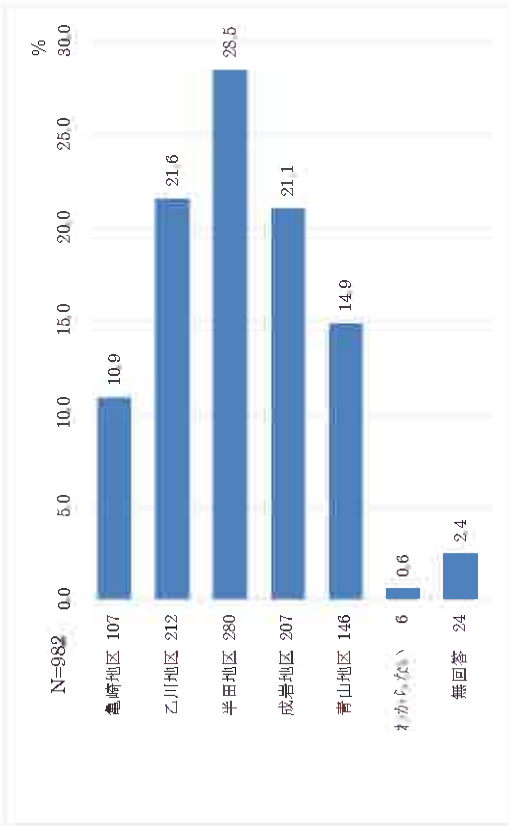
(3) 家族構成



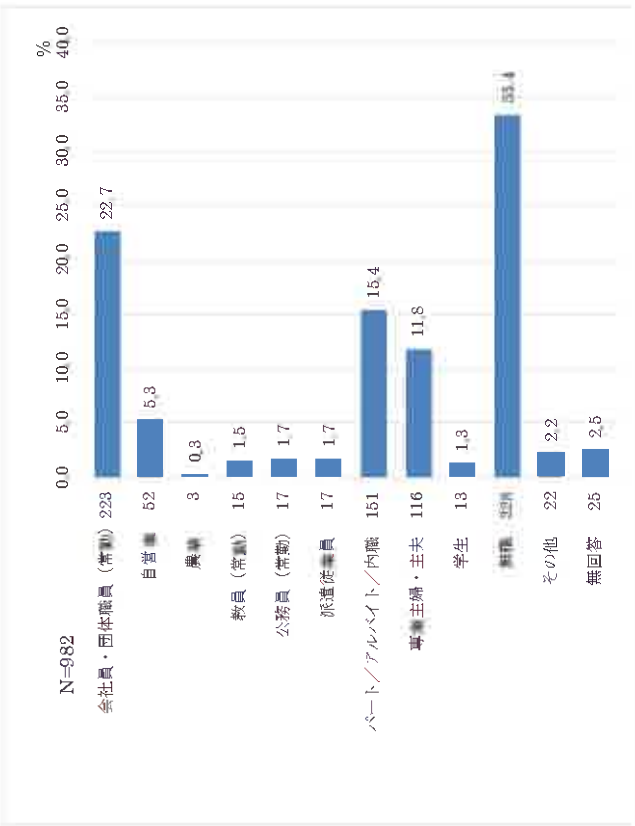
(4) 世帯の状況



(5) 居住地区（中学校区）

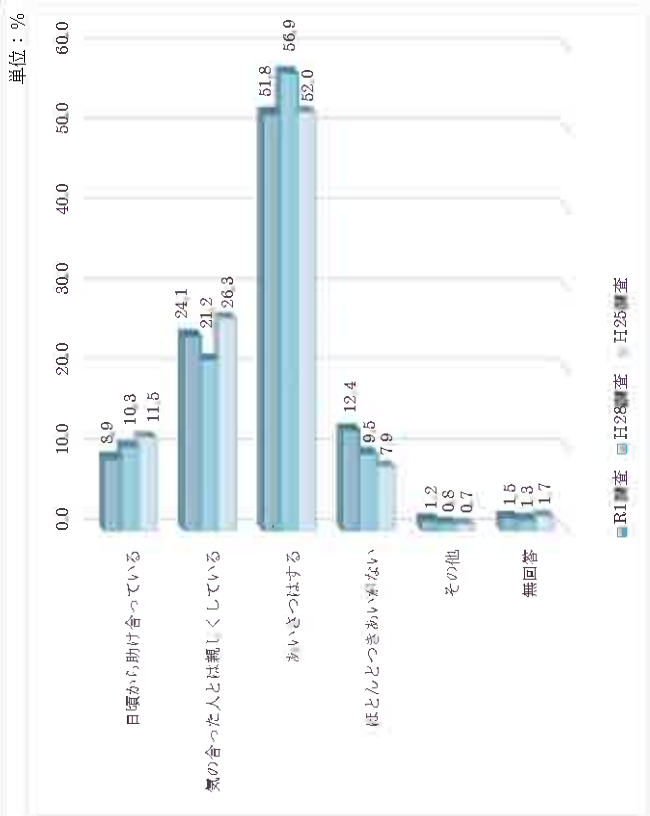


(6) 職業



2 日常生活について

問7 近隣の人は、どの程度付き合いをしていますか。（1つの番号に○）



		有効回答数（件）	日頃から助け合っている	気の合った人とは親しくしている	かいぎつはする	ほとんどつきあいしない	その他	無回答
年齢別	10～20代	67	1.5	4.3	64.2	26.9	3.0	0.0
	30代	92	3.3	18.5	60.9	16.3	1.1	0.0
	40代	129	2.3	18.6	62.0	15.3	0.8	0.8
	50代	123	4.0	18.4	60.8	16.0	0.0	0.8
	60代	171	9.9	25.7	53.8	8.8	1.8	0.0
	70代	204	15.7	33.3	41.7	6.4	1.0	2.0
	80代以上	172	14.5	29.7	42.4	9.9	1.7	1.7

単位：％

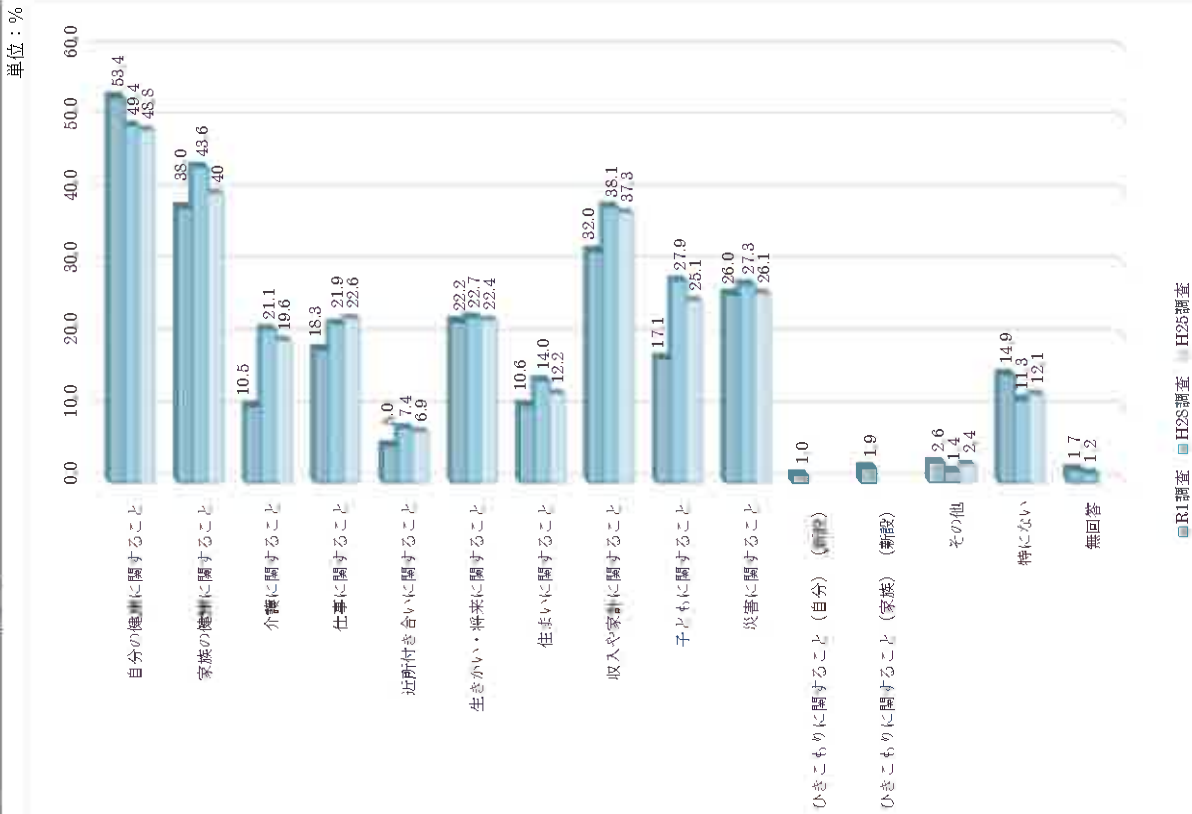
居住地区別	有効回答数（件）	日ごろから助け合っている	気の合った人とは親しくしている	あいさつはする	ほとんど付き合いがない	その他	無回答
亀崎地区	107	15.0	25.2	42.1	14.0	0.9	2.8
乙川地区	212	7.1	25.5	56.6	8.3	1.9	0.5
半田地区	280	7.1	21.1	56.8	12.9	1.8	0.4
咸岩地区	207	9.2	21.3	50.2	17.4	1.0	1.0
曹山地区	146	11.0	30.1	48.6	8.9	0.0	1.4

近隣の人との付き合いの程度については、過年度と比較して、「あいさつはする」と「日頃から助け合っている」の割合が減少しています。一方、「ほとんど付き合いがない」の割合は増加しています。

年齢別では、「日ごろから助け合っている」、「気の合った人とは親しくしている」の割合が高いのは60代以上で、「ほとんど付き合いがない」の割合が高いのは50代以下となっています。

地区別では、亀崎地区の「日ごろから助け合っている」の割合が高い結果となっています。

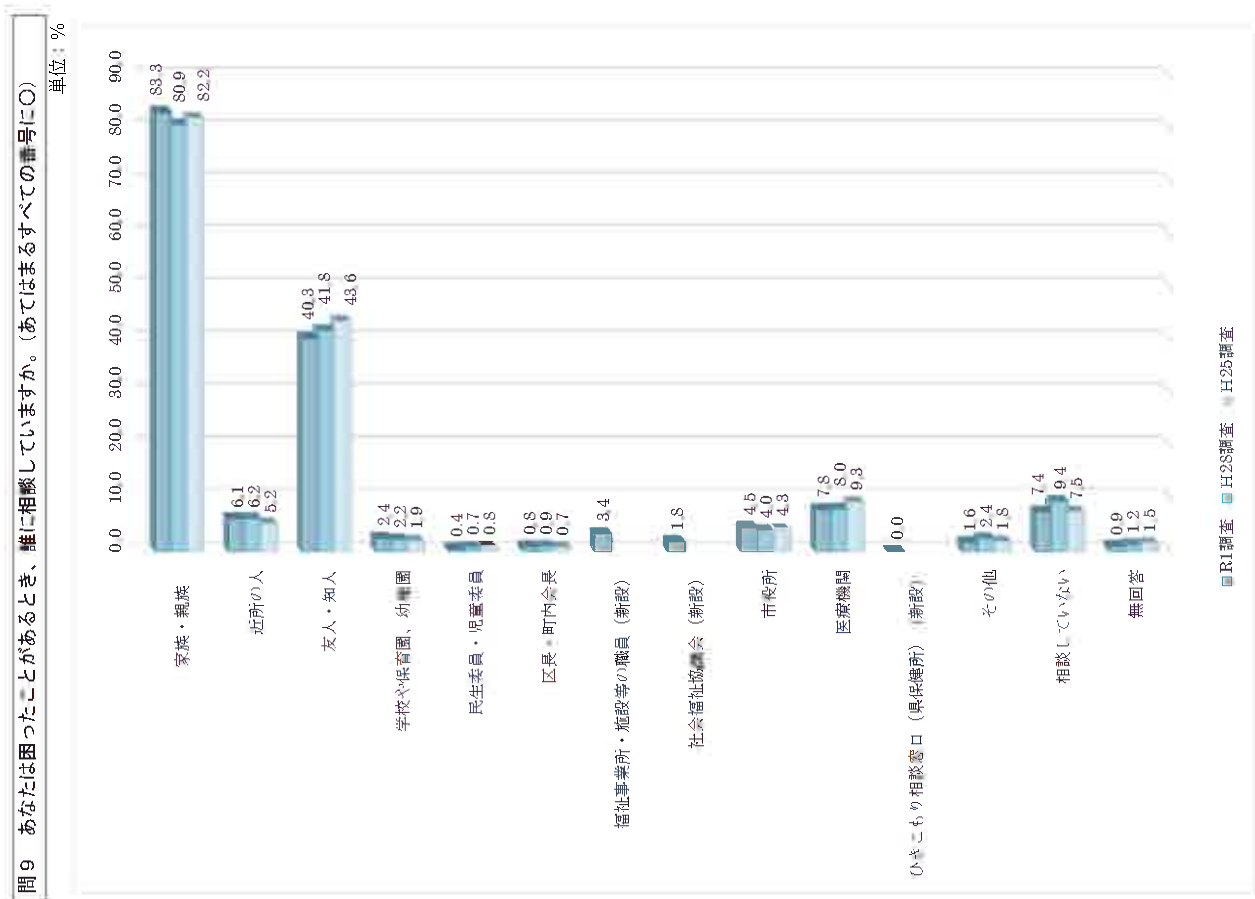
問8 あなたは、日常生活の中で、どのような悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるすべての番号に○)



		単位：％													特 に な い	無 回 答	
年 齢 別		有 効 回 答 数 （ 件 ）	自 分 の 健 康 に 関 する こ と	家 族 の 健 康 に 関 する こ と	す べ て の 人 に 関 する こ と	仕 事 に 関 する こ と	近 所 の 人 に 関 する こ と	生 き が い ・ 将 来 に 関 する こ と	住 ま い に 関 する こ と	取 入 り や 家 計 に 関 する こ と	子 ど も に 関 する こ と	災 害 に 関 する こ と	ひ き こ も り に 関 する こ と （ 自 分 ）	ひ き こ も り に 関 する こ と （ 家 族 ）	そ の 他		
10～20代		67	26.9	32.4	4.4	43.4	0.0	38.8	6.0	47.8	23.9	25.4	0.0	0.0	0.0	14.9	3.0
30代		92	26.1	31.4	5.4	31.5	12.0	22.8	19.6	45.7	45.5	32.6	2.2	4.3	1.1	15.2	0.0
40代		129	48.8	33.3	9.4	37.4	3.1	29.4	14.0	45.4	34.1	34.9	0.8	3.1	1.6	10.1	0.0
50代		125	49.6	44.0	15.4	34.4	6.4	27.2	16.0	43.2	16.8	33.6	0.8	3.2	2.4	10.4	1.4
60代		171	60.2	43.9	14.0	12.4	4.4	25.4	12.4	35.1	14.0	23.4	0.0	0.0	1.8	14.0	0.0
70代		204	60.8	43.1	6.8	2.4	2.4	14.2	6.4	19.0	8.3	20.6	0.4	1.5	1.5	18.1	1.4
80代以上		172	70.3	32.0	14.0	1.2	7.0	13.4	4.4	14.4	3.4	19.8	1.4	2.3	6.4	18.0	2.9

日常生活における悩みや不安としては、「自分の健康に関すること」の割合が最も高く、次いで「家族の健康に関すること」、「収入や家計に関すること」という結果となっています。

年齢別では、10～20代の「生きがい・将来に関すること」、「仕事に関すること」の割合が高い結果となっています。



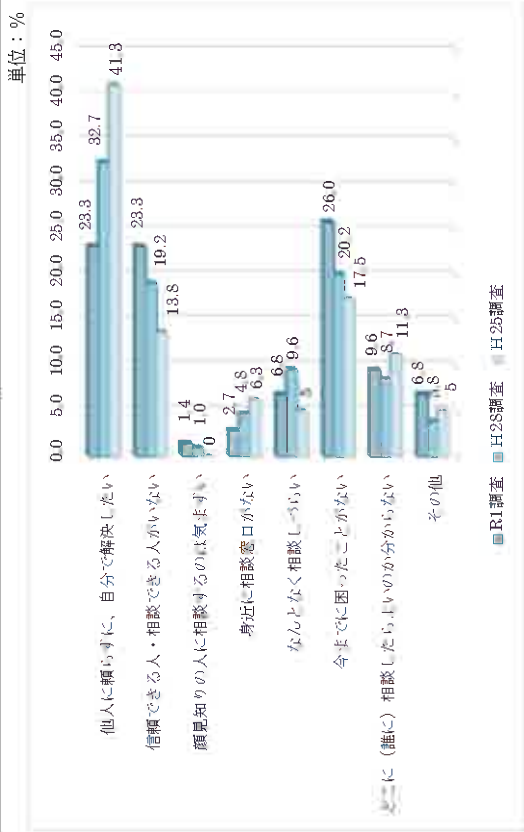
年齢別	単位：％												無回答
	有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	学校や保育園、幼稚園	民生委員・児童委員	区長・町内会長	福祉事業所・施設等の職員	社会福祉協議会	市役所	医療機関	ひきこもり相談窓口（保健所）	その他
10～20代	67	86.0	0.0	70.1	4.8	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	6.0	0.0	1.5
30代	92	84.8	2.2	54.3	14.1	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1	4.3	0.0	9.8
40代	129	89.1	3.9	52.7	4.7	0.0	0.8	4.7	1.6	2.3	4.7	0.0	0.8
50代	125	72.0	4.0	47.2	0.8	0.0	3.2	3.2	4.8	4.8	8.0	0.0	5.6
60代	171	86.0	7.8	43.3	0.8	0.0	1.8	2.9	1.8	5.6	4.7	0.0	1.8
70代	204	83.3	7.8	31.4	0.0	1.0	1.0	2.5	1.0	6.9	7.8	0.0	0.8
80代以上	172	85.9	11.0	18.0	0.0	1.4	0.6	5.2	4.1	5.3	16.3	0.0	1.3

困ったときの相談相手としては、「家族・親族」の割合が最も高く、次いで、「友人・知人」となっています。

年齢別では、10～20代の「友人・知人」、60代以上の「近所の人」の割合が高い結果となっています。

問9で「相談していない」と答えた方にお聞きします。

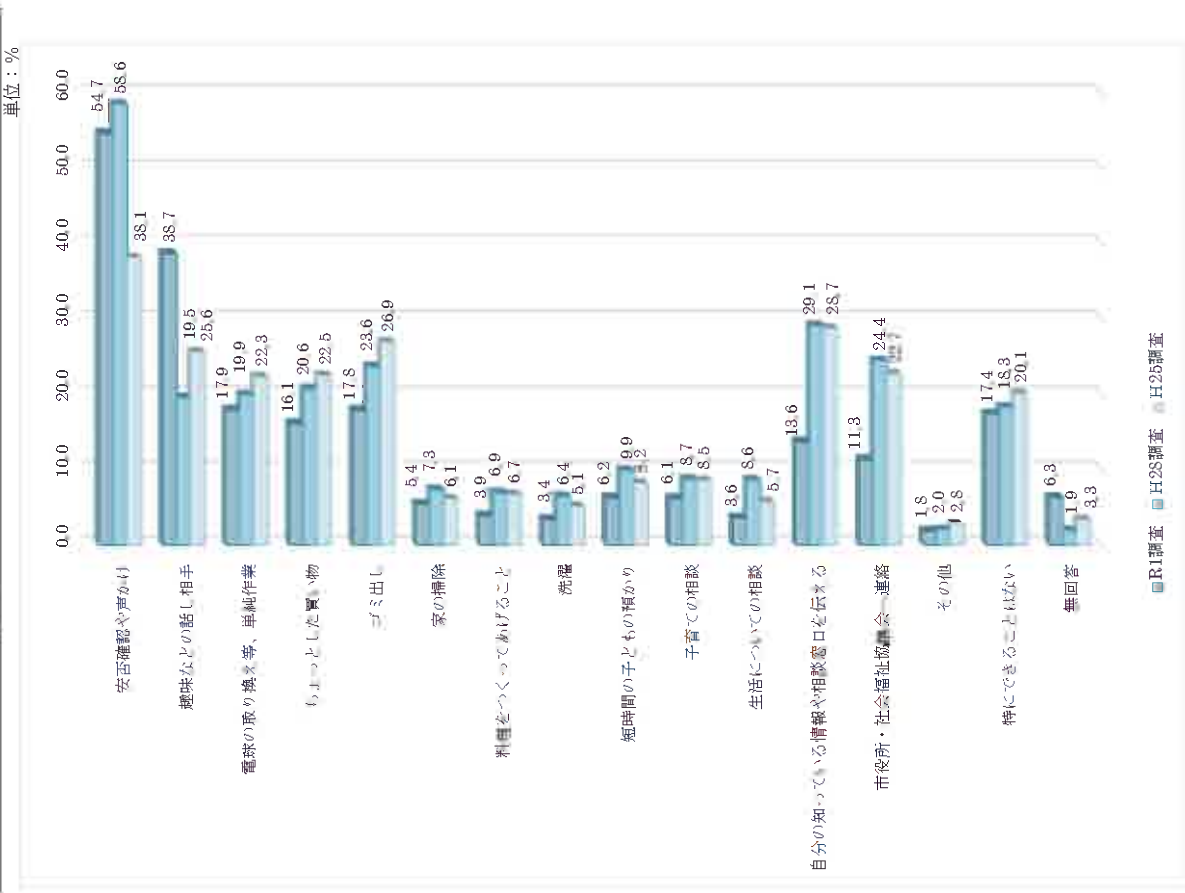
問9-1 なぜ、相談していないのですか。（1つの番号に○）



年齢別	有効回答数（件）	単位：％										無回答
		他人に頼らずに、自分で解決したい	信頼できる人・相談できる人がいない	顔見知りの人に相談するのは気まずい	身近に相談窓口がない	なんとなく相談しづらい	今までに困ったことがない	どこか知らない誰かに相談したらよいのか	その他	その他	その他	
10～20代	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	9	11.1	44.4	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
40代	7	14.3	42.9	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50代	15	40.0	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0
60代	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70代	20	25.0	15.0	0.0	0.0	10.0	45.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0
80代以上	8	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0

相談していない理由としては、過年度と比較して「他人に頼らずに、自分で解決したい」の割合が減少した一方、「信頼できる人・相談できる人がいない」の割合が増加しています。

問10 近所の人のちよっととした困りごと支援や助け合い活動として、あなたができるとは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)



単位：％

年齢別	有効回答数(件)	安否確認や声かけ	話し相手	簡単な取 り換えや 電球の 交換等	ちよっと とした買 い物支 援	ゴミ出し	家の掃 除	料理の手 伝い	洗濯	短時間 の子ど もの預 かり	子育て の相談	生活につ いての 相談	知っ てい る情 報や 相談 窓 口を 伝 え	市役所・ 社会福 祉協 議会 へ連 絡	そ の 他	特 に で き る こ と は な い	無 回 答
10~20代	67	58.2	52.2	10.4	4.5	9.0	0.0	1.5	0.0	6.0	11.9	7.5	7.5	14.9	1.5	19.4	1.5
30代	94	48.9	49.1	10.9	11.0	6.4	2.2	1.1	1.1	9.4	15.2	2.3	10.4	1.1	0.0	25.0	1.1
40代	124	61.2	49.4	25.1	18.6	12.4	4.7	5.9	1.1	12.4	7.0	0.0	18.6	15.5	0.0	14.0	2.7
50代	124	68.8	49.2	21.6	18.4	22.4	1.4	2.4	2.4	4.8	8.0	5.2	17.6	19.2	1.6	16.0	0.0
60代	171	62.7	41.5	22.2	26.3	25.1	11.7	6.4	5.4	6.4	5.4	4.1	18.3	12.9	2.9	11.1	1.5
70代	204	58.1	38.2	19.6	18.6	24.5	7.4	4.9	6.4	4.9	5.4	4.6	15.7	10.8	1.0	15.2	6.9
80代以上	174	11.7	32.6	12.2	7.0	14.0	4.1	4.1	1.3	2.9	1.2	4.7	6.4	5.8	4.1	26.7	14.0

単位：％

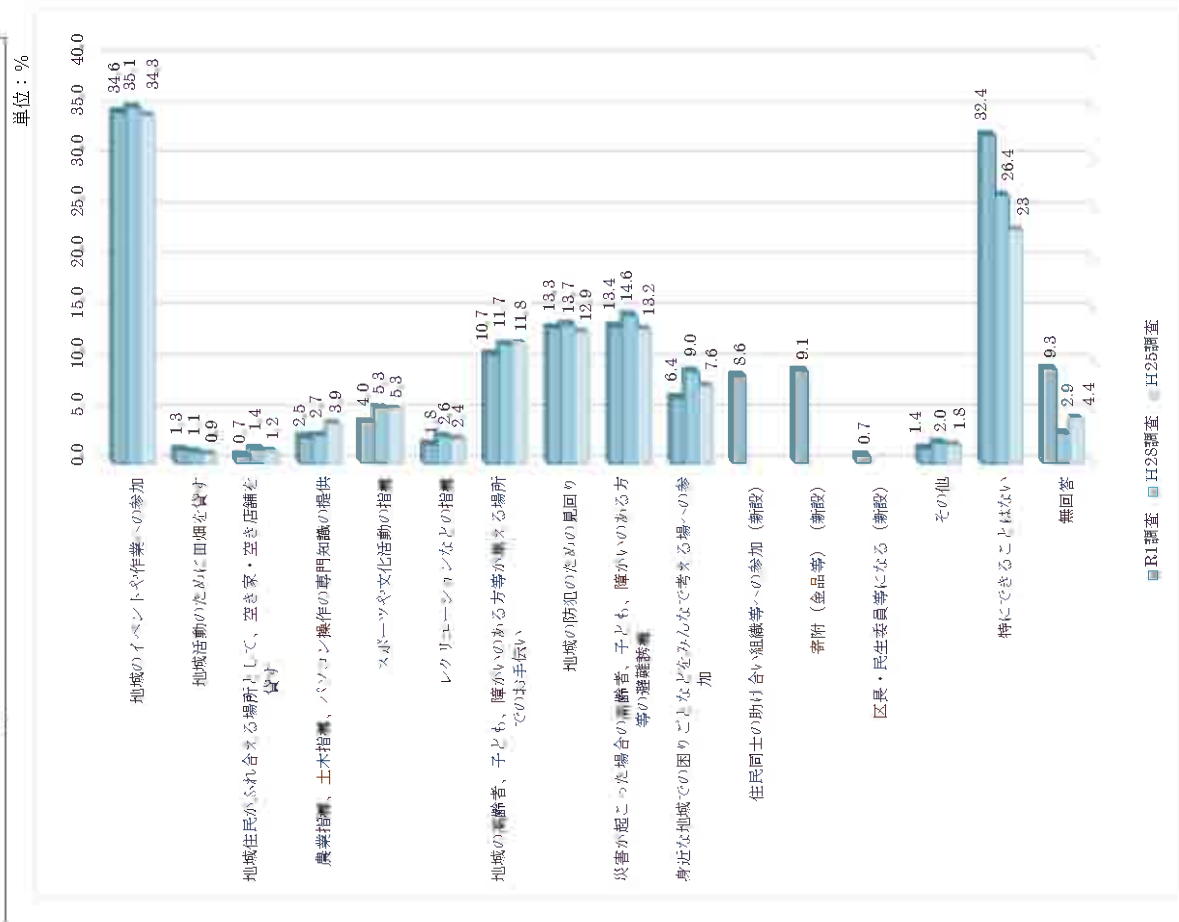
居住地区別	有効回答数(件)	安否確認や声かけ	話し相手	簡単な取 り換えや 電球の 交換等	ちよっと とした買 い物支 援	ゴミ出し	家の掃 除	料理の手 伝い	洗濯	短時間 の子ど もの預 かり	子育て の相談	生活につ いての 相談	知っ てい る情 報や 相談 窓 口を 伝 え	市役所・ 社会福 祉協 議会 へ連 絡	そ の 他	特 に で き る こ と は な い	無 回 答
亀岡地区	107	60.7	41.1	17.8	27.1	23.4	6.4	7.4	7.4	4.7	8.4	5.6	22.4	17.8	4.7	13.4	6.9
乙地区	212	56.1	37.3	19.3	15.6	18.4	5.7	4.2	3.4	7.5	5.7	3.4	12.7	10.4	2.6	17.4	6.6
一地区	287	57.5	40.0	16.4	15.4	17.2	3.4	3.6	3.4	6.8	5.7	4.6	14.3	10.4	1.0	19.3	3.9
東岸地区	207	55.1	39.6	19.3	15.3	15.9	6.3	3.9	2.4	6.3	4.4	1.0	10.6	9.3	1.4	18.8	5.3
三地区	140	52.7	39.7	19.2	13.0	17.1	6.2	2.1	2.7	5.5	8.9	4.1	13.0	14.4	0.0	16.4	3.4

近所の人の困りごと支援や助け合い活動としては、「安否確認と声かけ」の割合が最も高く、次いで「趣味などの話し相手」となっています。

年齢別では、30代の「子育ての相談」、60代の「ちよっととした買い物支援」の割合が高い結果となっています。

地区別では、亀岡地区の「安否確認や声かけ」、「ちよっととした買い物支援」の割合が高い結果となっています。

問11 あなたは、今後どのようなことで地域に貢献できると思いますか。
(あてはまるすべての番号に○)



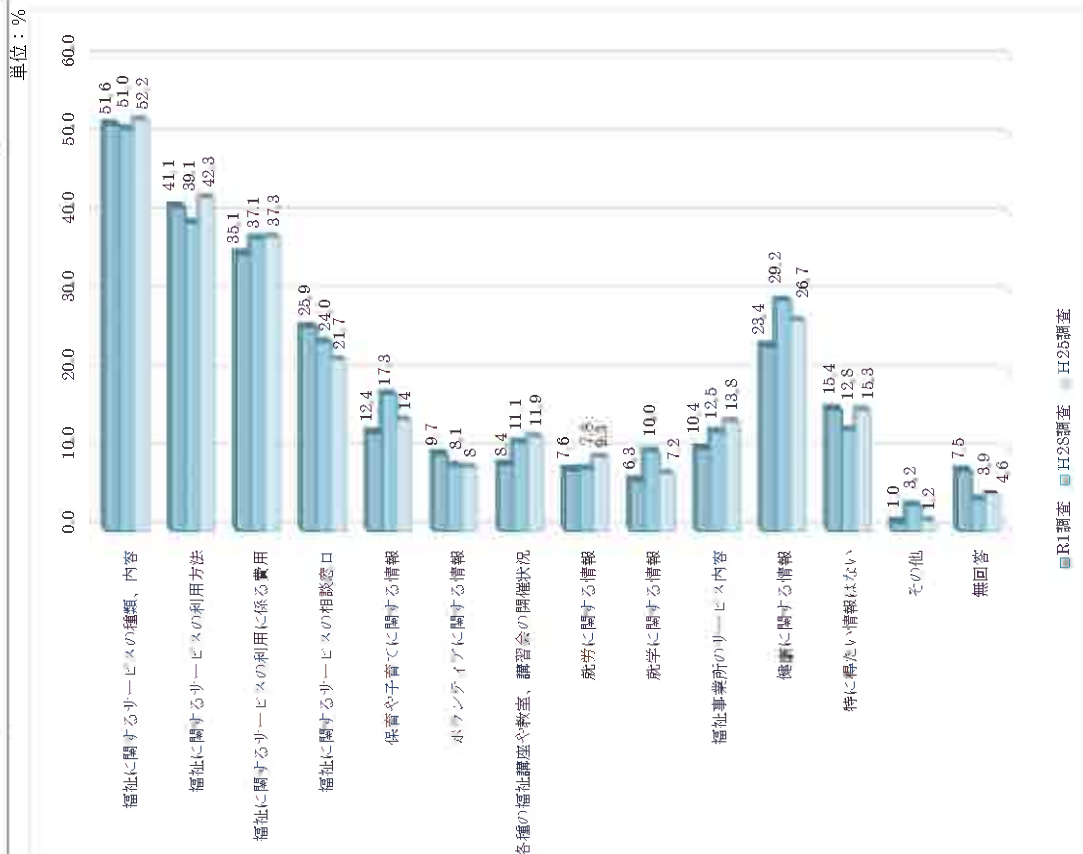
単位：％

有効回答数（件）	地域のイベントや作業への参加	地域活動のために田畑を貸す	地域・空き家・空き店舗を貸す	農業指導、土木指導、パソコン操作の専門知識の提供	スポーツや文化活動の指導	レクリエーションなどの指導	方々が集える場所での、お茶会などの開催	地域の防犯のための見回り	も、災害が起きた場合の避難誘導、子ども、障がいのある方等の避難誘導	身近な地域での参加することなどをみんな考える場への参加	住民同士の助け合い組織等への参加	寄附（金品等）	区長・民生委員等になる	その他	特にできることはない	無回答
10～20代	5.4	41.8	0.0	0.0	5.0	4.5	4.5	9.0	17.5	4.5	5.0	10.5	0.0	3.0	23.0	1.5
30代	9.2	46.7	1.1	1.1	2.2	8.7	3.3	10.9	10.9	2.2	2.2	6.9	0.0	0.0	34.8	1.1
40代	12.9	45.7	2.3	1.5	4.7	3.9	14.7	16.3	20.9	6.4	4.7	11.0	0.8	1.6	20.2	1.6
50代	12.4	37.0	0.8	0.8	3.2	4.8	2.4	16.0	15.2	6.4	7.2	5.4	0.0	1.4	27.3	3.3
60代	17.1	40.4	1.2	0.0	1.2	4.7	1.2	17.0	17.5	9.9	17.0	9.4	2.9	1.8	29.4	6.8
70代	20.4	32.9	2.0	1.0	2.0	1.5	1.0	11.8	16.2	8.8	10.8	11.2	0.4	1.4	36.3	12.7
80代以上	17.5	15.1	1.2	0.4	1.2	2.3	1.2	4.1	6.4	2.3	4.1	5.8	0.0	1.4	48.8	20.3

今後地域貢献としてできることについては、「地域のイベントや作業への参加」の割合が最も高い結果となっています。

年齢別では、40代・50代の「災害が起こった場合の高齢者、子ども、障がいのある方等の避難誘導」、60代・70代の「住民同士の助け合い組織等への参加」の割合が高い結果となっています。

問12 あなたは、**留**址に関するどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○)



单位: %

有効回答数（件）	種別別に 回答するサ－ビスの 利用状況	利用方法 に関するサ－ビスの 利用状況	利用に 係る費用サ－ビスの 利用状況	相談窓口 に関するサ－ビスの 利用状況	保育や子育てに 関する情報	ボランティアに 関する情報	各種講座や教室・ 習い事の開催状況や 申し込み状況	就労に関する情報	就学に関する情報	福祉事業所のサ－ビス内 容に関する情報	特 に 得 たい 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答
10～20代	67	46.3	31.3	25.4	17.9	38.8	9.0	1.4	14.9	3.0	14.9	0.0	1.5
30代	92	30.4	22.8	21.7	9.8	56.5	10.9	10.9	25.0	4.3	21.7	1.1	1.1
40代	129	51.2	41.9	37.2	27.9	25.6	10.9	10.1	16.3	8.9	16.3	0.0	2.3
50代	128	65.6	49.6	40.0	34.4	4.8	12.8	8.0	3.2	8.8	14.4	0.8	2.4
60代	171	63.7	52.6	43.9	29.2	2.3	14.6	15.8	0.0	16.4	28.1	1.2	4.1
70代	204	55.9	43.1	37.7	27.0	0.0	8.3	6.9	0.5	12.3	13.7	0.5	9.8
80代以上	172	41.9	36.6	30.8	26.2	0.0	2.9	4.1	0.0	11.0	18.6	2.9	15.7

得たい福祉情報については、「福祉に関するサービスの種類、内容」の割合が最も高く、次いで「福祉に関するサービスの利用方法」、「福祉に関するサービスの利用に係る費用」という結果となっています。年齢別では、40代以下の「保育や子育てに関する情報」の割合が高い結果となっています。

3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について

問13 あなたは、自治区やコミュニティなどで地域の活動をしていますか。(1つの番号に○)



年齢別	有効回答数（件）	単位：%					無回答
		活動している	現在活動したことはないが、過去に活動したことがある	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	無回答	
10～20代	67	3.0	7.5	25.4	62.7	1.5	
30代	92	15.2	10.9	18.5	55.4	0.0	
40代	129	18.6	10.9	20.2	47.3	3.1	
50代	125	14.4	24.0	29.6	32.0	0.0	
60代	171	22.2	20.5	17.5	36.8	2.9	
70代	204	21.6	25.0	6.9	41.7	4.9	
80代以上	172	19.2	22.7	2.3	39.0	16.9	

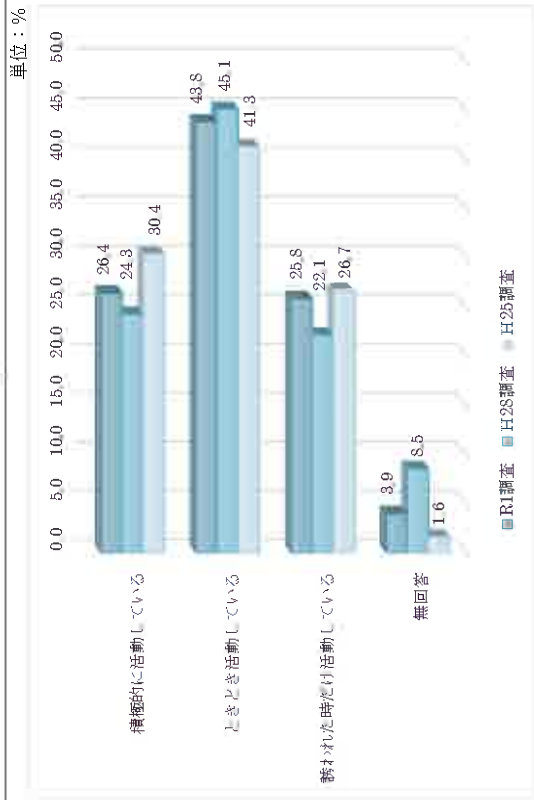
近所付き合いの程度別	有効回答数（件）	単位：%				無回答
		活動している	現在活動したことはないが、過去に活動したことがある	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	
三軒から助け合っている	87	40.2	23.0	12.6	14.9	9.2
家の合った人とは親しくしている	237	25.7	22.8	12.2	34.6	4.6
あいさつはする	509	13.8	18.7	17.5	46.4	3.7
ほとんど付き合いがない	122	4.9	13.9	12.3	64.8	4.1
その他	12	25.0	0.0	16.7	33.3	25.0
無回答	0	20.0	13.3	0.0	33.3	33.3

自由になる時間別	有効回答数（件）	単位：%				無回答
		活動している	現在活動したことはないが、過去に活動したことがある	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	
平日の午前	135	33.3	18.5	14.8	31.9	1.5
平日の午後	109	28.4	22.0	18.3	29.4	1.8
平日の夜間	42	28.6	23.8	21.4	23.8	2.4
土曜日の午前	106	25.5	13.2	28.3	30.2	2.8
土曜日の午後	92	26.1	19.6	27.2	25.0	2.2
土曜日の夜間	42	26.2	14.3	19.0	40.5	0.0
日曜・祝日の午前	107	29.9	14.0	32.7	23.4	0.0
日曜・祝日の午後	89	25.8	19.1	29.2	25.8	0.0
日曜・祝日の夜間	32	31.3	12.5	12.5	43.8	0.0
時間は特に関係ない	157	17.8	19.7	12.7	48.4	1.3
時間がほとんどない	213	8.5	17.8	13.6	59.6	0.5

過年度と比較して、地域活動・ボランティア活動を行っている人が減少しています。
年齢別では、30代以下の「活動したことはないが、今後も活動したいと思う」の割合は50%を超えています。
近所付き合いの程度別では、ほとんど付き合いがない場合の「活動したことはないが、今後も活動したいと思う」の割合は64.8%となっています。

問13-1～3は、問13で「活動している」と答えた方にお聞きします。

問13-1 どの程度活動をしていますか。(1つの番号に○)

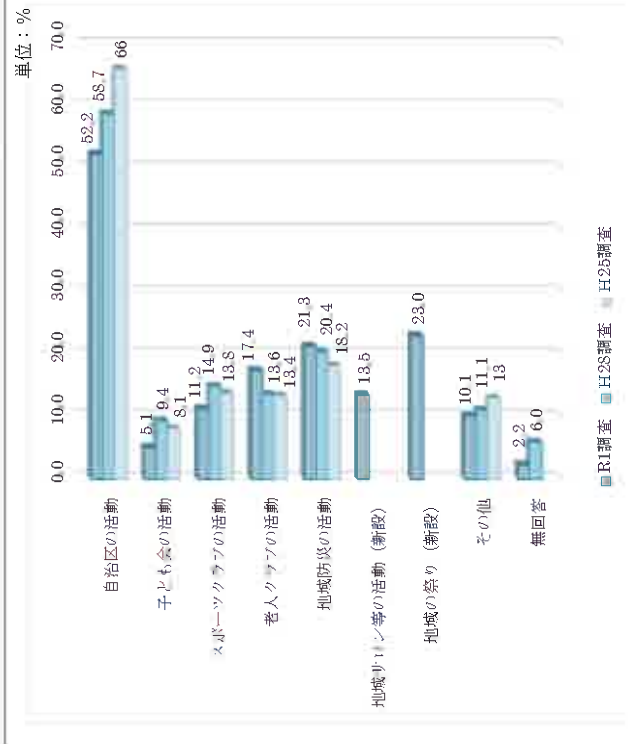


単位：％

有効回答数(件)	積極的に活動している	ときどき活動している	休めた時だけ活動している	無回答
10～20代	2	100.0	0.0	0.0
30代	14	21.4	71.4	7.1
40代	24	12.5	50.0	37.5
50代	18	16.7	33.3	50.0
60代	38	23.7	47.4	21.1
70代	44	43.2	29.5	22.7
80代以上	33	21.2	51.5	21.2

年齢別では、「積極的に活動している」の割合が最も高いのは70代という結果となっています(有効回答件数2件の10～20代を除く)。

問13-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべての番号に○)

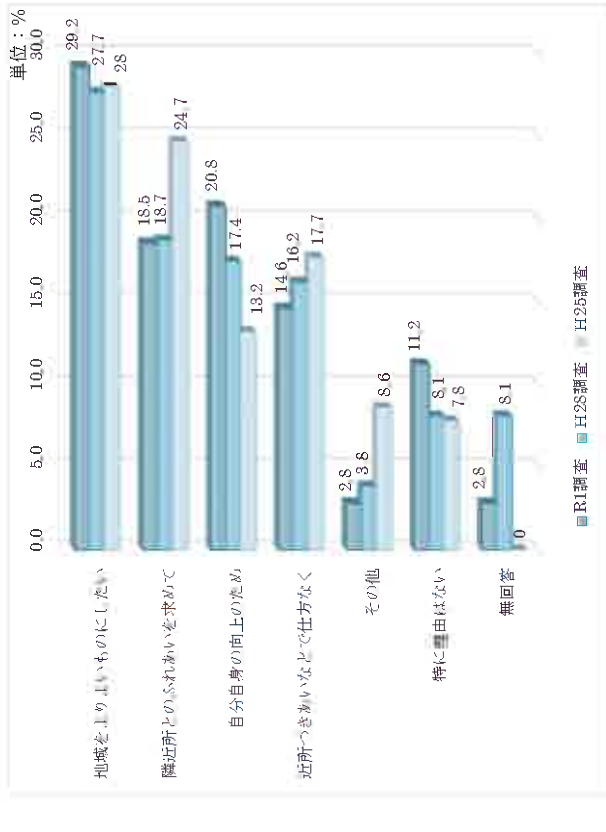


単位：％

有効回答数(件)	自治会の活動	子ども会の活動	スポーツクラブの活動	老人クラブの活動	地域防災の活動	地域サロンの活動	地域の祭り	その他	無回答
10～20代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	14	57.1	14.3	0.0	0.0	7.1	64.3	7.1	0.0
40代	24	66.7	12.5	8.3	0.0	0.0	12.5	20.8	0.0
50代	18	77.8	5.6	11.1	0.0	27.8	5.6	11.1	5.6
60代	38	39.5	0.0	13.2	7.9	34.2	10.5	28.9	13.2
70代	44	54.5	6.8	15.9	27.3	34.1	29.5	11.4	4.5
80代以上	33	36.4	0.0	12.1	48.5	9.1	18.2	12.1	0.0

活動の種類については、「自治会の活動」の割合が最も高い結果となっています。年齢別では、10～20代・30代の「地域の祭り」、50代・60代・70代の「地域防災の活動」の割合が高い結果となっています。

問13-3 どのような目的で活動していますか（1つの番号に○）

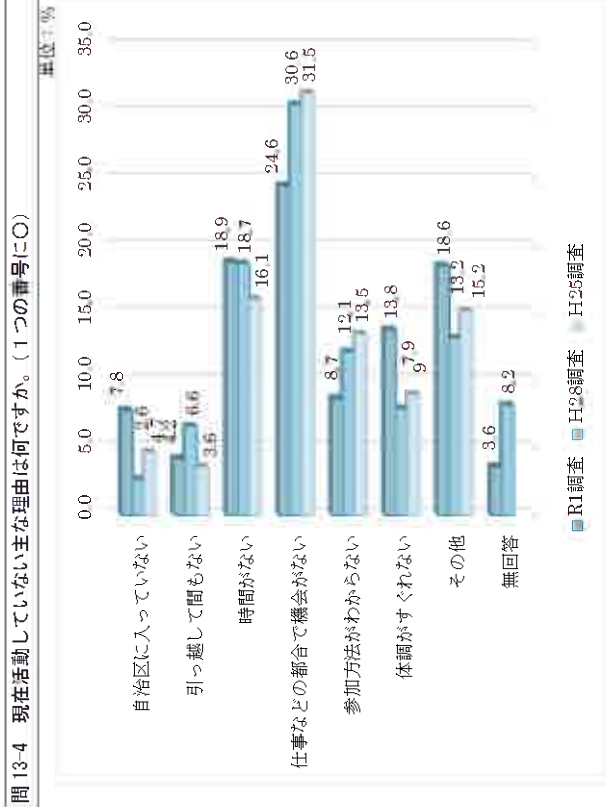


有効回答数（件）	年齢別									
	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	その他	特に理由はない
地域をよりよいものにしたい	2	14	24	18	38	44	33	0.0	21.4	15.2
隣近所とのふれあい求めている	30.0	28.6	8.3	11.1	18.4	28.0	15.2	0.0	7.1	39.4
自分自身の向上のため	0.0	7.1	12.5	0.0	18.4	27.3	39.4	0.0	0.0	0.0
近所づきあいやなどで仕方なく	0.0	7.1	41.7	33.3	7.9	4.5	9.1	0.0	21.4	14.3
その他	0.0	0.0	0.0	5.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	0.0	0.0	20.8	11.1	10.5	2.3	15.2	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0

活動の目的については、「地域をよりよいものにしたい」の割合が最も高く、次いで「自分自身の向上のため」、「隣近所とのふれあい求めている」という結果となっています。

年齢別では、「近所づきあいやなどで仕方なく」の割合が高いのは、40代・50代という結果となっています。

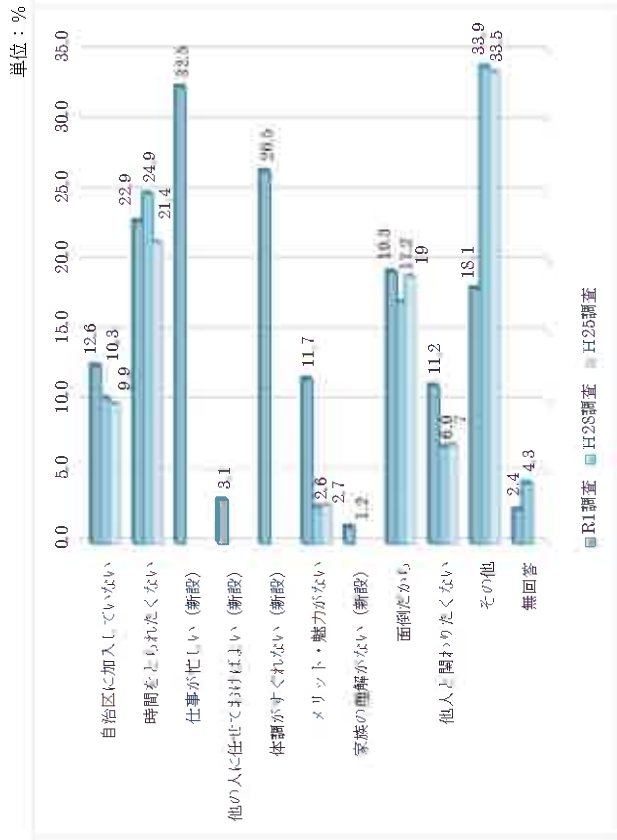
問13-4 現在活動していない主な理由は何ですか。（1つの番号に○）



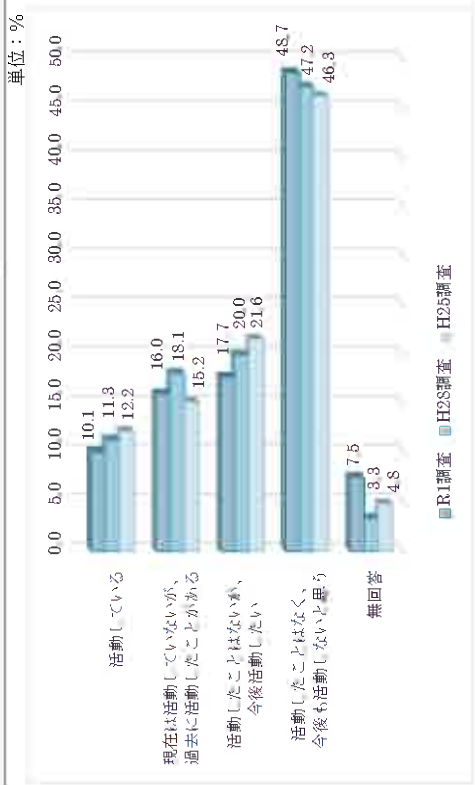
有効回答数（件）	年齢別									
	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	その他	体調がすぐれない
自治区に入っていない	22	27	40	67	65	65	43	0.0	2.3	4.7
引っ越して間もない	9.1	18.5	12.5	9.0	6.2	4.6	0.0	0.0	2.3	4.7
時間がない	27.3	7.4	0.0	1.5	4.6	1.5	0.0	2.3	4.7	7.0
仕事などの都合で機会がない	4.5	7.4	45.0	49.3	27.7	10.8	7.0	4.7	39.5	23.3
参加方法がわからない	13.6	0.0	2.5	7.5	12.3	12.3	4.7	0.0	13.6	4.5
体調がすぐれない	0.0	0.0	2.5	4.5	12.3	24.6	39.5	0.0	14.3	3.7
その他	0.0	14.3	5.0	7.5	21.5	24.6	39.5	0.0	14.3	3.7
無回答	4.5	3.7	2.5	3.0	3.1	4.6	2.3	0.0	0.0	0.0

現在活動していない理由については、「仕事などの都合で機会がない」の割合が最も高く、特に40代・50代の半数近くがそのように回答されています。

問13-5 今後も活動しないと思う理由は何ですか。(1つの番号に○)



問14 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○)



単位：%

	有効回答数（件）	活動している	現在活動しているが、過去に活動したことがない	活動したいことはないが、今後活動したいと思うことなく、今後もしも活動しない	無回答
10～20代	67	10.4	26.4	44.8	1.3
30代	92	8.7	18.5	55.4	1.1
40代	129	7.8	16.3	44.2	1.6
50代	126	8.0	20.8	39.2	0.8
60代	171	11.7	10.5	47.4	5.8
70代	204	13.7	13.2	55.9	3.9
80代以上	172	7.0	16.9	51.2	20.9

単位：%

有効回答数 (件)	自治区に加入していない	時間をとられたくない	仕事忙しい	他の人に任せたい	体調がすぐれない	メリット・魅力がない	家族の理解がない	面倒だから	他人と関わりたくない	その他	無回答
10～20代	84	11.9	16.7	28.6	3.6	10.7	1.2	13.1	4.8	3.6	0.0
30代	110	10.0	18.2	24.3	1.8	8.2	0.9	19.1	4.3	7.3	0.0
40代	140	7.9	20.0	28.6	2.1	3.6	9.3	1.4	15.0	7.1	5.0
50代	63	8.8	11.8	27.9	1.4	10.3	5.9	0.0	10.3	16.2	7.4
60代	91	5.3	17.6	15.4	3.3	16.3	8.8	0.0	12.1	8.3	9.9
70代	97	6.2	5.2	7.2	1.0	40.2	4.1	1.0	9.3	5.2	19.6
80代以上	75	5.3	5.3	2.7	0.0	42.7	2.7	0.0	1.3	4.0	28.0

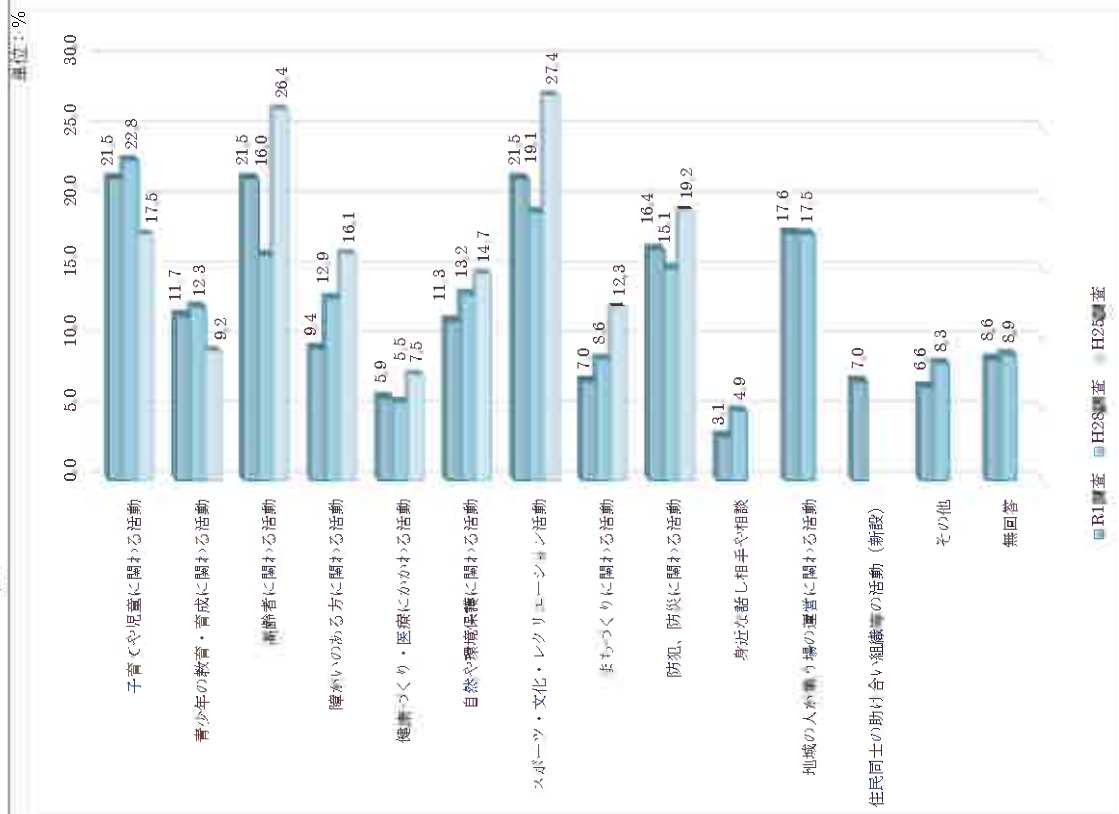
今後も活動しないと思う理由については、「仕事忙しい」の割合が最も高く、次いで「体調がすぐれない」、「時間をとられたくない」という結果となっています。

近所付き合いの程度別		単位：％				
	有効回答数（件）	活動している	現在活動はしているが、過去に活動したことがない	活動しなかったが、今後活動したい	活動しなかったと断言し、今後活動しない	無回答
日頃から訪ね合っている	87	23.0	20.7	14.9	28.7	12.6
頻りに訪ね合っている	237	12.7	18.1	15.6	46.4	7.2
たまに訪ね合っている	509	8.4	14.9	20.2	51.5	4.9
ほとんど付き合いがない	122	4.1	13.9	15.6	58.2	8.2
その他	12	0.0	8.3	16.7	50.0	25.0
無回答	0	6.7	13.3	0.0	26.7	53.3

ボランティア活動については、「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が最も高い結果となった一方、40代・50代の約30%が「活動したことはないが、今後活動したい」と回答されている。

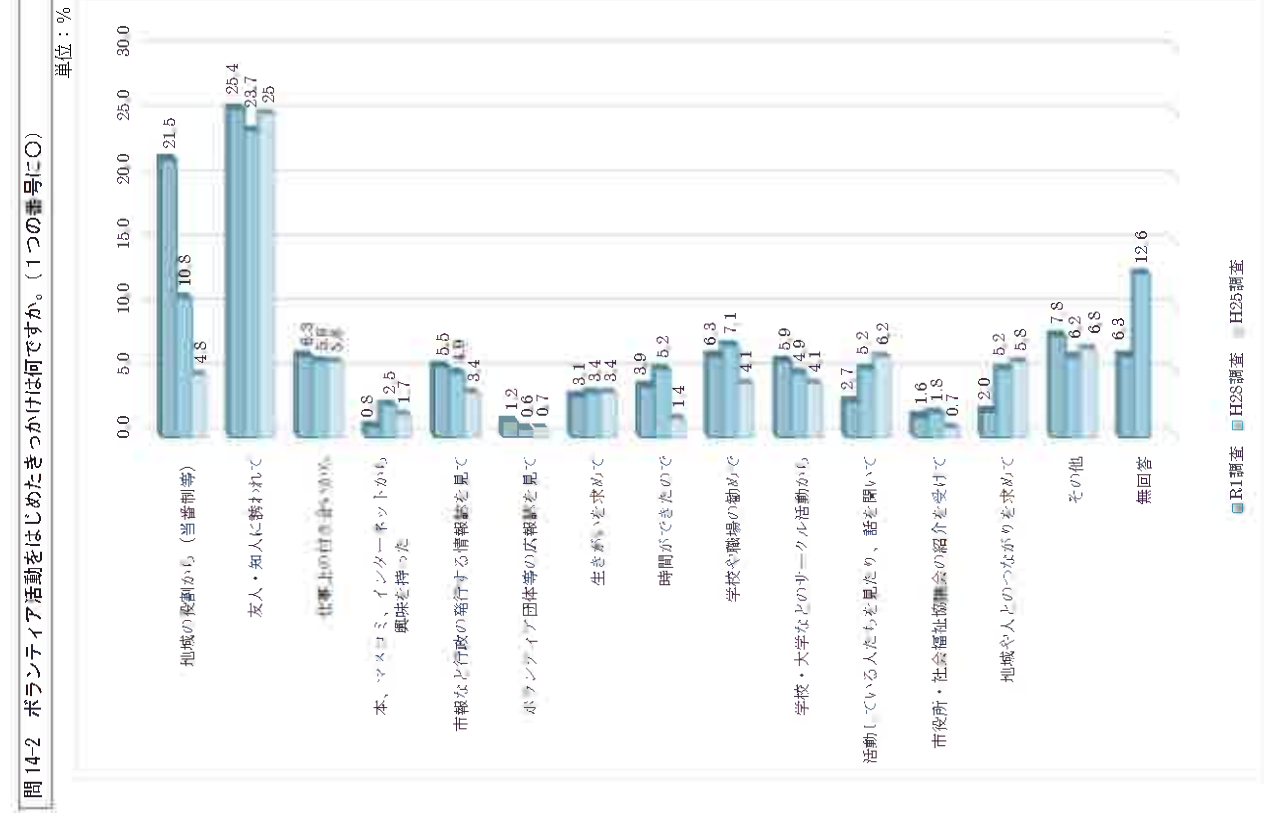
問14-1～2は、問14で「活動している」「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方にお聞きします。

問14-1 どのようなボランティア活動をしていますか。（していませんか。）
（あてはまるすべての番号に○）



年齢別	単位：％														その他	無回答
	有効回答数（件）	子育てや児童に関わる活動	青少年の活動・教育・育成に関わる活動	高齢者に関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療に関わる活動	自然環境・環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防災・防災に関わる活動	身近な活動や相談	地域に関わる活動	住民の活動の助け合い	その他		
10～20代	38	21.1	7.9	7.9	2.6	7.9	10.5	13.2	0.0	5.3	0.0	10.5	0.0	10.5	2.0	
30代	34	17.6	5.9	8.8	14.7	0.0	11.8	17.6	5.9	8.8	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	
40代	44	15.9	9.1	4.5	11.4	2.3	4.5	11.4	6.8	11.4	0.0	4.5	4.5	9.1	4.5	
50代	52	21.2	9.6	17.3	5.8	3.8	13.5	9.6	1.9	3.8	1.9	1.9	0.0	3.8	5.8	
60代	72	13.9	6.9	13.9	5.6	2.8	2.8	12.5	4.2	13.9	4.2	9.7	5.6	1.4	2.8	
70代	112	7.1	6.3	13.4	3.6	1.8	5.4	12.5	5.4	11.6	0.0	19.6	6.3	1.8	5.4	
80代以上	78	6.4	5.1	15.4	1.3	6.4	5.1	14.1	3.8	9.0	3.8	11.5	6.4	3.8	7.7	

ボランティア活動の種類については、「子育てや児童に関わる活動」、「高齢者に関わる活動」、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」の割合が、いずれも21.5%で最も高い結果となっています。



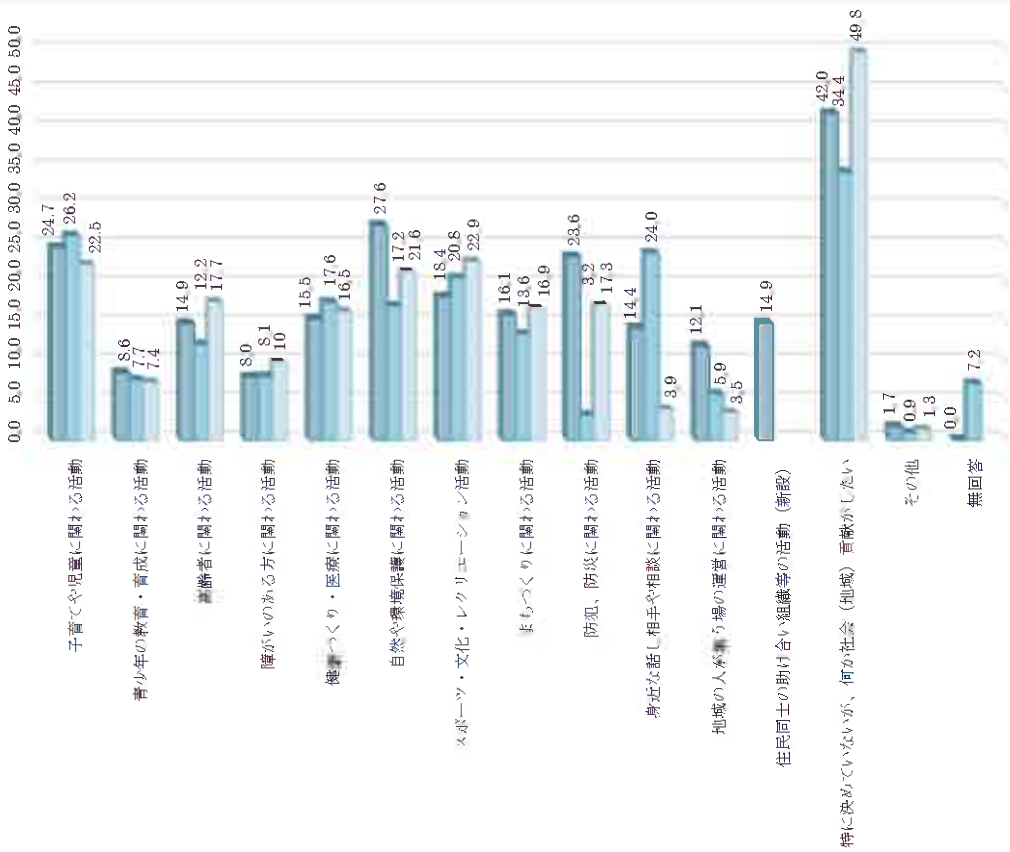
		単位：％											
有効回答数（件）	等（地）域の役割から（当番制）	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	ネット、パソコン、スマホから興味、関心を持たない	報市誌、新聞など行政の発行する情報を見たり、インターネット上の広報を見たり	生きがいを求めて	時間がないので	学校や職場の勧めで	活学動から大学などのサークル	活学動をしながらいる人たちを見たり、話し合っている人たちを見たり	紹介所・受け入れ施設・ボランティア活動の場	地域の人や人とのつながりやネットワークを求	その他
10～20代	24	4.2	8.3	12.5	0.0	0.0	0.0	33.3	20.8	0.0	0.0	0.0	16.7
30代	25	16.0	24.0	8.0	4.0	0.0	4.0	8.0	20.0	0.0	0.0	0.0	4.0
40代	31	25.8	22.6	9.7	0.0	0.0	3.2	6.5	6.5	3.2	3.2	0.0	19.4
50代	36	16.7	19.4	8.3	2.8	5.6	0.0	8.3	5.6	11.1	2.8	2.8	11.1
60代	38	23.7	34.2	1.9	0.0	5.3	7.9	0.0	0.0	2.6	5.3	0.0	5.3
70代	58	23.7	37.3	0.0	0.0	11.9	3.4	5.1	1.7	0.0	1.7	6.8	3.4
80代以上	41	31.7	19.5	2.4	0.0	7.3	9.8	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4

ボランティア活動をはじめたきっかけについては、「友人・知人に誘われて」の割合が最も高く、次いで「地域の役所から（当番制）」という結果となっています。

問 14で「活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にもお聞きします。
問 14-3 今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。

（あてはまるすべての番号に○）

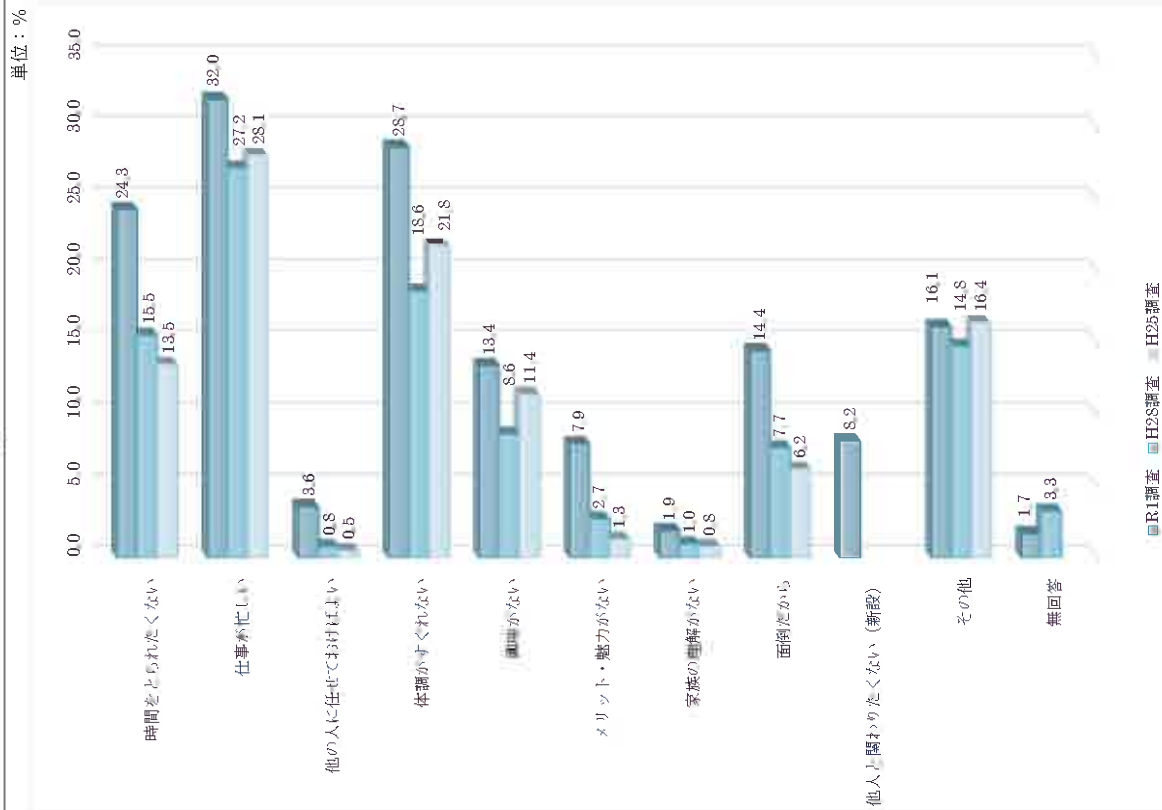
単位：％



■ R1調査 ■ H25調査

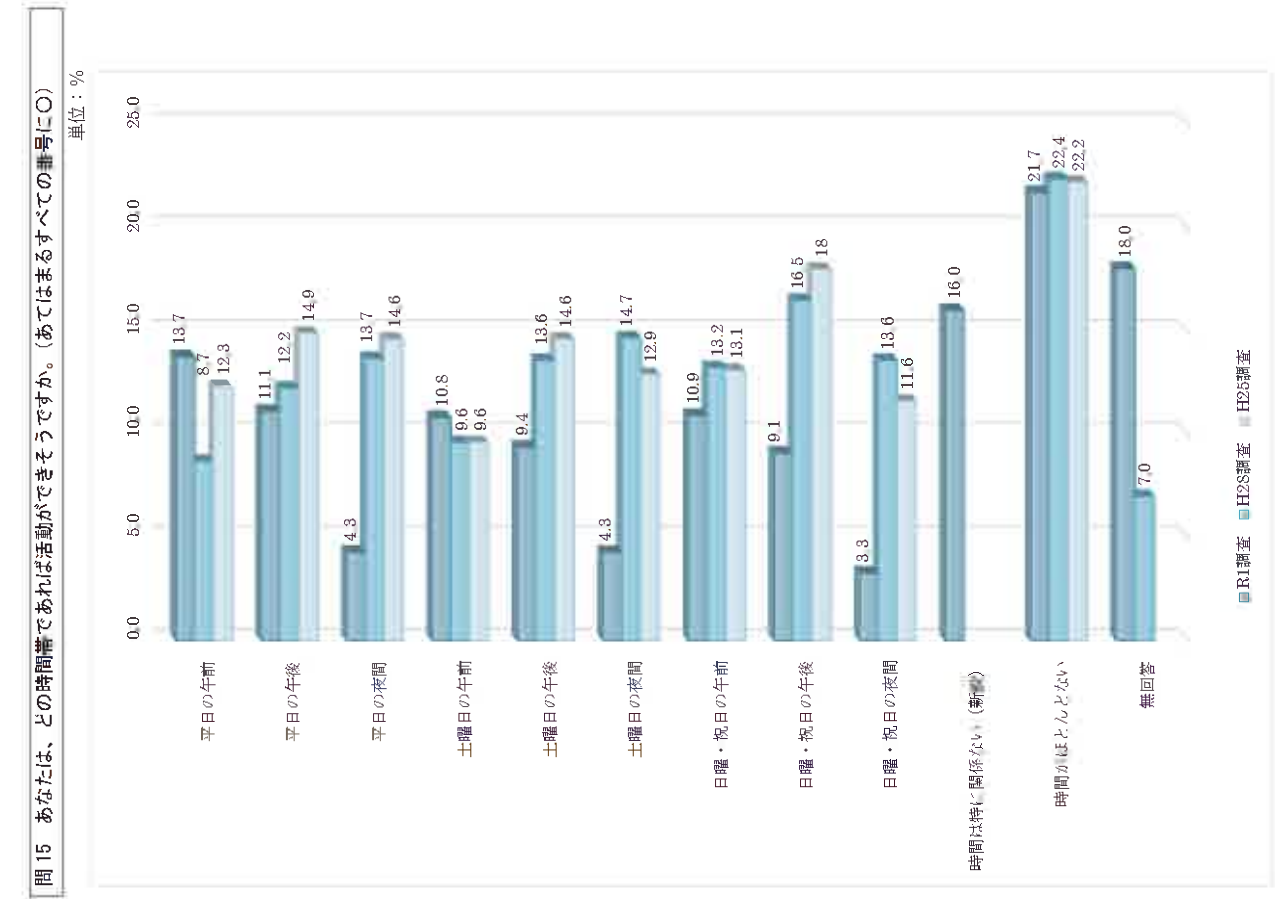
問 14で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします。

問 14-4 活動しない理由は何ですか。(1つの番号に○)



年齢別	単位：％														無回答
	有効回答数（件）	子育てや児童に関わる活動	青少年の教育・育成に関わる活動	高齢者に関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療に関わる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーションに関わる活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談に関わる活動	地域・地域の人が集う場の運営に関わる活動	住民同士の助け合い組織等	社会に決める役割がないが、何かしたい	
10～20代	12	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	33.3	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	25.0	0.0
30代	14	73.3	13.3	0.0	13.3	6.7	33.3	26.7	13.3	20.0	20.0	13.3	13.3	6.7	6.7
40代	33	38.8	2.6	20.3	10.3	15.4	28.2	12.8	15.4	23.1	10.3	5.1	15.4	41.0	0.0
50代	33	15.4	15.4	20.3	5.1	17.9	20.3	23.1	17.9	30.8	20.3	12.8	12.8	51.3	2.6
60代	42	11.9	9.5	19.0	11.9	14.3	38.1	14.3	26.2	26.2	11.9	16.7	19.0	42.9	0.0
70代	19	0.0	0.0	5.3	5.3	21.1	31.6	15.8	5.3	26.3	10.5	10.5	10.5	73.7	0.0
80代以上	7	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0

今後参加したいボランティア活動については、「特に決めていないが、何か社会(地域)貢献がしたい」の割合が最も高く、次いで「自然や環境保護に関わる活動」、「子育てや児童に関わる活動」となっています。



単位：%

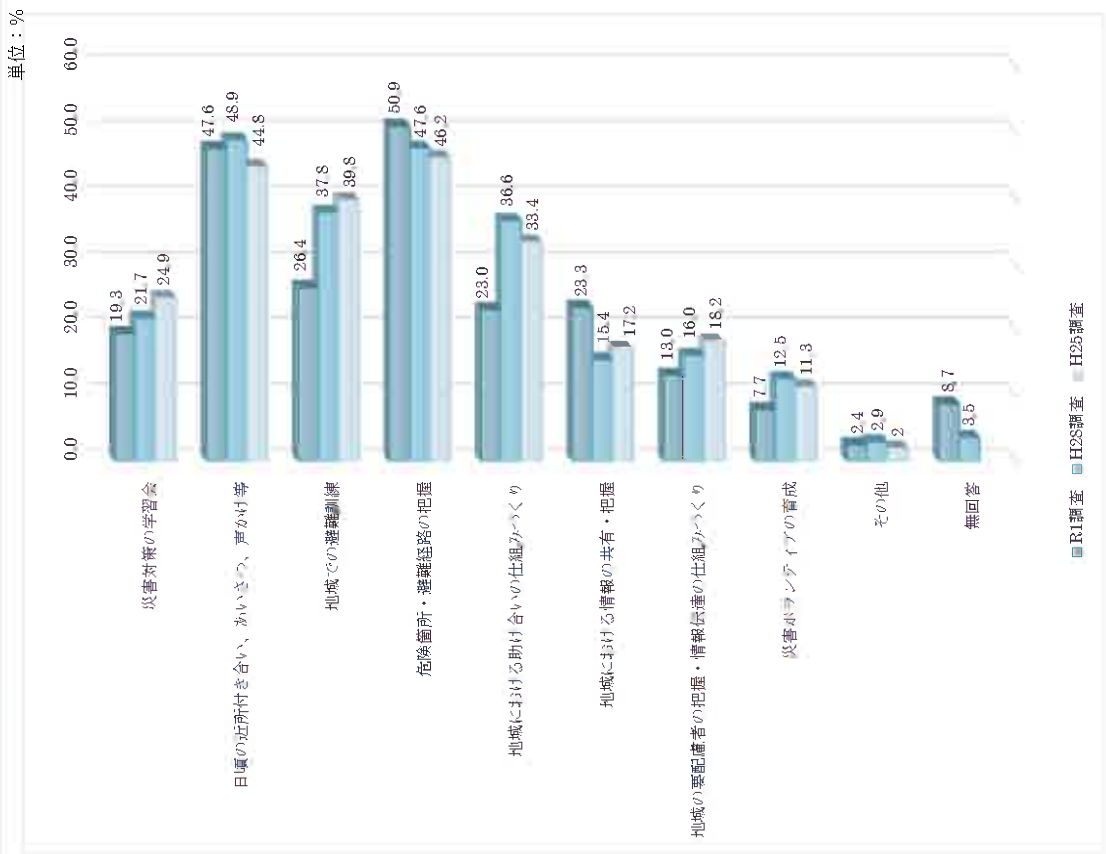
年齢別	有効回答数(件)	時間をとられたくない	仕事が忙しい	他の人に任せればよい	体調がすぐれない	興味がない	メリット・魅力がない	家族の理解がない	面倒だから	他人と関わりたくない	その他	無回答
10～20代	30	33.3	60.0	3.3	10.0	10.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
30代	51	52.9	60.8	5.9	5.9	13.7	5.9	2.0	27.5	7.8	5.9	0.0
40代	57	42.1	70.2	5.3	10.5	19.3	10.5	1.8	26.3	7.0	10.3	0.0
50代	49	24.5	44.9	0.0	20.4	18.4	12.2	2.0	22.4	18.4	10.2	0.0
60代	81	25.9	32.1	3.7	25.9	16.0	8.6	1.2	12.3	11.1	11.1	0.0
70代	114	14.0	6.1	4.4	43.0	14.0	7.0	3.5	9.6	7.0	18.4	3.5
80代以上	86	5.7	6.3	1.1	50.0	3.4	3.4	1.1	2.3	4.3	30.7	4.5

活動しない理由については、「仕事が忙しい」の割合が最も高く、次いで「体調がすぐれない」、「時間をとられたくない」という結果となっています。

年齢別では、40代以下の「時間をとられたくない」と「仕事が忙しい」と「体調がすぐれない」の割合が高い結果となっています。

4 災害時における助け合いについて

問 16 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なこと
です。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。
(3つまで番号に○)



単位：％

年齢別	有効回答数(件)	平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	時間とは特に関係ない	時間がほとんどない	無回答
10～20代	67	3.0	1.5	10.4	22.4	13.4	10.4	16.4	17.9	10.4	4.5	37.3	0.0
30代	92	12.0	1.1	5.4	17.4	15.2	7.6	22.8	16.3	7.6	12.0	32.4	1.1
40代	129	9.3	4.7	9.3	15.8	14.7	9.3	18.6	12.4	6.2	8.5	34.9	3.1
50代	125	4.0	6.4	6.4	14.4	16.0	7.2	13.6	11.2	2.4	18.4	32.0	2.4
60代	171	18.7	17.0	3.3	11.7	10.3	2.9	11.7	8.2	2.3	17.5	14.4	16.4
70代	204	24.0	20.6	1.3	6.4	4.4	0.5	4.9	6.4	1.0	25.0	11.3	22.3
80代以上	172	12.8	12.8	0.6	1.7	1.7	0.6	2.3	2.3	0.6	14.5	11.4	49.4

活動ができそうな時間帯については、「時間とは特に関係ない(断り)」の割合が最も高い結果となつています(「時間がほとんどない」と「無回答」を除く)。
また、過年度と比較して、「平日の夜間」、「土曜日の午後」、「土曜日の夜間」、「日曜・祝日の午後」、「日曜・祝日の夜間」の割合が大幅に減少しています。

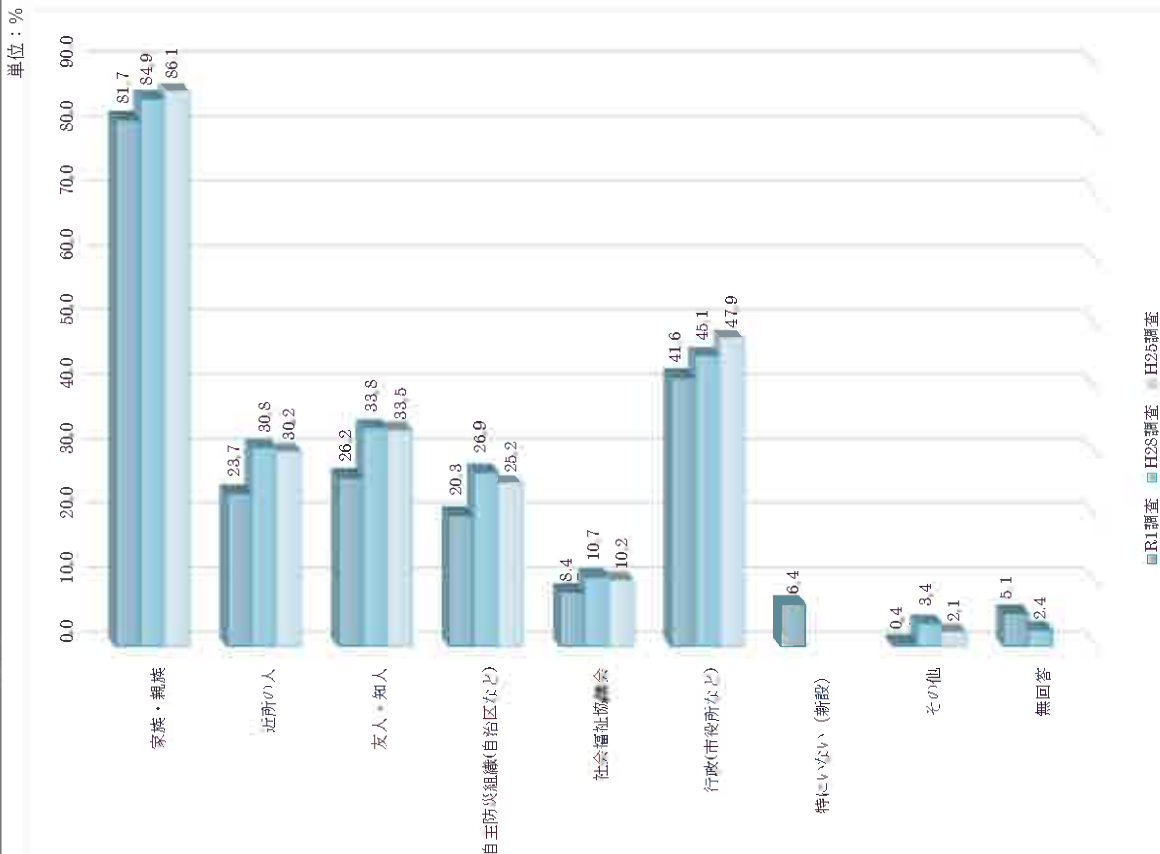
年齢別	単位：％										その他	無回答
	有効回答数（件）	災害対策の学習会	日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等	地域での避難訓練	危険箇所・避難経路の把握	災害ボランティアの育成	地域における助け合いの仕組みづくり	地域における情報の共有・把握	地域伝達の要配慮者の把握・情報共有	地域の要配慮者の把握・情報共有		
10～20代	67	16.4	37.3	32.8	68.7	6.0	17.9	31.3	10.4	0.0	0.0	1.5
30代	92	18.5	48.9	29.3	65.2	7.6	19.6	23.9	17.4	1.1	1.1	0.0
40代	129	24.0	43.4	27.9	58.9	10.1	21.7	25.6	17.1	4.7	4.7	1.6
50代	125	20.0	36.8	22.4	57.6	15.2	29.6	26.4	14.4	4.0	4.0	0.8
60代	171	25.1	48.5	26.9	55.0	6.4	22.8	26.3	17.0	1.8	1.8	4.7
70代	204	15.7	61.8	29.9	45.6	5.4	23.5	20.1	9.8	1.5	1.5	11.8
80代以上	172	18.0	47.1	21.5	29.1	4.7	24.4	18.6	8.7	2.3	2.3	23.8

世帯の状況別	単位：％										その他	無回答
	有効回答数（件）	災害対策の学習会	日頃の近所付き合い、あいさつ	地域での避難訓練	危険箇所・避難経路の把握	災害ボランティアの育成	地域における助け合いの仕組みづくり	地域における情報の共有・把握	地域伝達の要配慮者の把握・情報共有	地域の要配慮者の把握・情報共有		
1 子育てをしている	204	20.1	49.0	29.9	60.3	9.8	24.0	26.3	15.7	1.0	1.0	1.5
2 介護が必要が声掛けと同居している	96	17.9	35.7	14.3	33.9	3.9	35.7	26.3	16.1	7.1	7.1	17.9
3 介護が必要が同居している	31	16.1	41.9	29.0	35.5	9.7	19.4	6.5	12.9	6.5	6.5	16.1
4 その他1～3に該当する状況	50	20.0	42.0	18.0	50.0	8.0	22.0	28.0	16.0	10.0	10.0	10.0
5 1～4に該当しない	584	20.3	50.3	28.3	51.3	7.4	23.3	23.3	12.3	1.5	1.5	6.3

地域における災害時の備えとして重要だと思われることについては、「危険箇所・避難経路の把握」の割合が最も高く、次いで「日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等」という結果となっています。

また、過年度と比較して、「地域での避難訓練」と「地域における助け合いの仕組みづくり」の割合が大幅に減少しています。

問 17 大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。（あてはまるすべての番号に○）



単位：％

	有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織（自治区など）	社会福祉協議会	行政（市役所など）	特にいない	その他	無回答
10～20代	67	83.6	11.9	38.8	13.4	4.5	43.3	1.5	0.0	1.5
30代	92	87.0	10.9	28.3	18.5	0.0	41.3	6.5	1.1	0.0
40代	129	82.9	22.5	32.6	21.7	6.2	48.8	7.8	0.0	1.8
50代	125	77.6	15.2	29.6	20.8	3.2	49.6	12.0	1.6	0.8
60代	171	83.6	26.9	29.8	22.2	10.5	43.9	4.7	0.6	4.1
70代	204	85.3	34.3	24.0	27.0	10.8	42.6	4.4	0.0	5.4
80代以上	172	77.3	28.5	13.4	15.1	14.5	29.7	6.4	0.0	12.2

年齢別

単位：％									
有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織（自治区など）	社会福祉協議会	行政（市役所など）	特にいない	その他	無回答
居住地区別									
龜崎地区	107	85.0	29.9	31.8	25.2	5.6	29.9	2.8	0.9
乙川地区	212	82.1	21.2	22.2	20.8	5.7	43.4	7.5	0.5
半田地区	280	81.4	25.0	26.1	22.5	8.9	44.3	5.0	0.4
成岩地区	207	80.2	24.2	28.5	15.0	8.7	42.5	8.2	0.0
青山地区	146	84.9	22.6	28.1	22.6	12.3	47.3	6.2	0.7

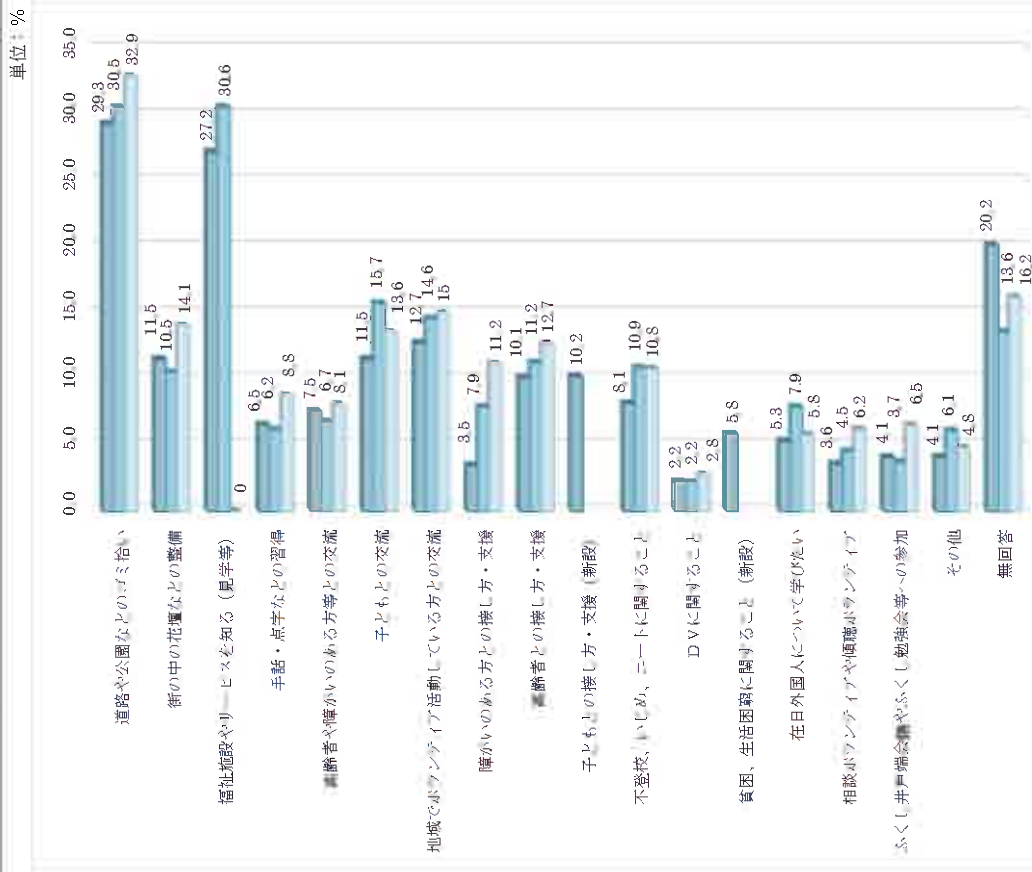
被災者世帯の程度別

単位：％									
有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織（自治区など）	社会福祉協議会	行政（市役所など）	特にいない	その他	無回答
日頃から付き合い合っている	87	87.4	49.4	33.3	33.3	11.5	36.8	3.4	0.0
気の合った人とは頻しくしている	237	83.1	37.1	30.8	25.3	13.1	46.8	2.5	0.0
あいさつはする	509	84.7	18.1	24.0	19.3	6.1	43.0	6.9	0.4
ほとんど付き合いがない	122	68.0	4.9	21.3	7.4	6.6	35.2	14.8	1.6
その他	12	58.3	16.7	33.3	8.3	0.0	25.0	8.3	0.0

被災後の生活において頻りにしている相手については、「家族・親族」の割合が最も高く、次いで「行政（市役所など）」、「友人・知人」、「近所の人」、「自主防災組織（自治区など）」という結果となっています。

5 地域の課題について

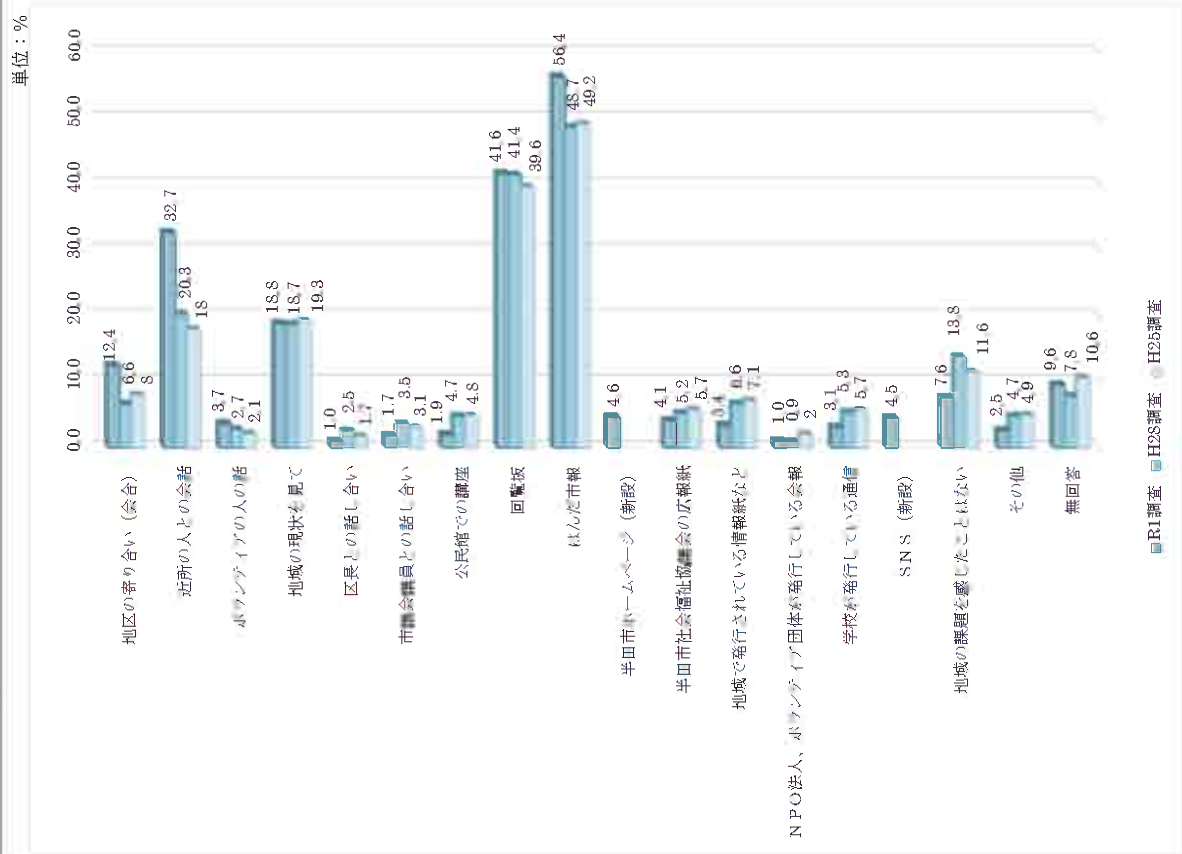
問18 あなたは地域の課題に対して、どのような活動をしたり、学んだりしたいと思いますか。
(3つまで番号に○)



単位：％

年齢別	育幼園名数 (世)	道路や公園などのゴミ拾い	街の中の花壇などの整備	福祉施設やサービスを知る	手話・点字などの習得	高齢者や障がいのある方	子どもとの交流	地域でボランティア活動している方	障がいのある方との接し方・支援	高齢者との接し方・支援	子どもとの接し方・支援	不登校、いじめ、ニートに関すること	DVに関すること	貧困、生活困窮に関すること	在日外国人について学びたい	相談ボランティアや傾聴ボランティア	ふくし井戸端会議やふくし勉強会	その他
18歳以下	6	22	11	16	11	6	37	11	34	26	1	1	6	11	16	1	1	1
19歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
20歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
21歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
22歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
23歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
24歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
25歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
26歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
27歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
28歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
29歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
30歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
31歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
32歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
33歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
34歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
35歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
36歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
37歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
38歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
39歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
40歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
41歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
42歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
43歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
44歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
45歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
46歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
47歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
48歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
49歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
50歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
51歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
52歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
53歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
54歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
55歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
56歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
57歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
58歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
59歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
60歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
61歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
62歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
63歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
64歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
65歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
66歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
67歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
68歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
69歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
70歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
71歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
72歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
73歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
74歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
75歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
76歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
77歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
78歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
79歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
80歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
81歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
82歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
83歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
84歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
85歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
86歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
87歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
88歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
89歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
90歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
91歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
92歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
93歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
94歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
95歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
96歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
97歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1
98歳以上	12	27	16	16	33	22	33	16	22	62	11	16	11	22	11	11	11	1

問 19 あなたが地域の課題を知る・感じる機会は、次のうちのどのようなですか。
(3つまで番号に○)



単位：％

年齢別	有効回答数（件）	地区の寄り合い（会合）	近所の人との会話	ボランティアの人の話	地域の現状を見て	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	公民館での講座	回覧板	はんだ市報	半田市ホームページ	半田市社会福祉協議会の広報紙	地域で発行されている情報紙など	ボランティア団体が発行している会報	学校が発行している通信	SNS	地域の課題を感じたことはない	その他	無回答
10～20代	37	4.3	19.4	3.0	23.5	0.0	1.4	0.0	19.4	32.4	7.5	0.0	8.4	0.0	3.4	22.4	25.4	0.0	3.0
30代	42	1.4	30.4	0.0	2.0	1.1	2.2	1.1	32.4	48.4	8.4	1.1	0.0	0.0	8.4	1.0	13.4	7.4	4.3
40代	22	10.4	30.4	7.0	2.0	0.0	2.0	0.0	24.4	54.4	5.4	1.0	1.0	1.0	9.4	1.0	14.4	4.0	2.3
50代	22	10.4	25.4	4.0	24.5	0.0	0.0	1.0	42.4	55.4	8.4	2.4	4.4	0.0	4.4	5.0	8.4	2.4	2.4
60代	17	12.4	32.4	3.0	24.0	2.4	1.4	2.4	50.4	94.4	8.4	3.4	5.4	1.4	0.4	1.4	4.4	1.4	5.4
70代	20	18.4	38.4	4.4	18.4	1.0	2.4	2.4	55.4	93.4	2.4	8.4	3.4	2.4	0.4	0.4	2.4	1.4	10.4
80代以上	17	15.4	30.4	2.4	7.4	0.4	1.4	2.4	44.4	54.4	1.4	8.4	2.4	0.4	1.4	0.4	2.4	1.4	20.4

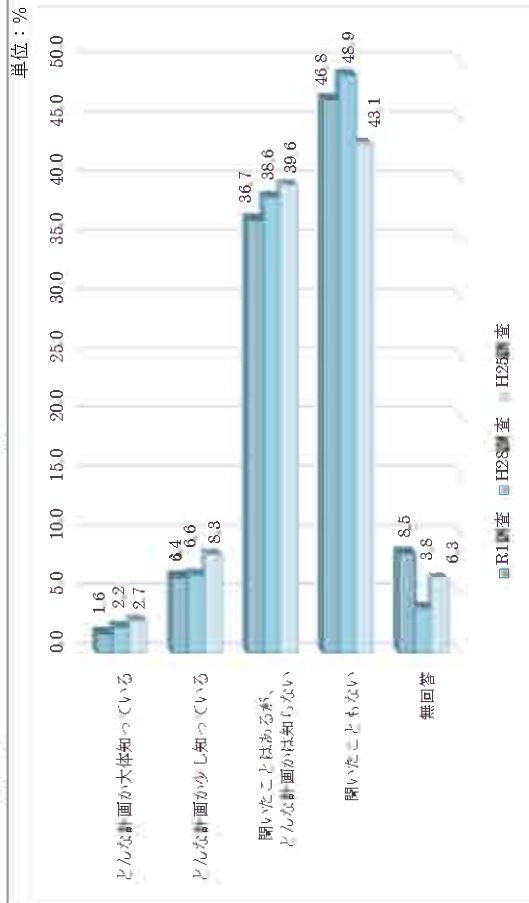
単位：％

居住地区別	有効回答数（件）	地区の寄り合い（会合）	近所の人との会話	ボランティアの人の話	地域の現状を見て	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	公民館での講座	回覧板	はんだ市報	半田市ホームページ	半田市社会福祉協議会の広報紙	地域で発行されている情報紙など	ボランティア団体が発行している会報	学校が発行している通信	SNS	地域の課題を感じたことはない	その他	無回答
豊田地区	16	11.4	35.4	7.4	26.4	0.4	0.4	2.4	46.4	48.4	3.4	2.4	2.4	0.4	0.4	1.4	1.4	2.4	6.4
乙川地区	21	11.4	35.4	3.4	24.4	0.4	1.4	1.4	40.4	59.4	4.4	1.4	2.4	0.4	3.4	5.4	2.4	2.4	8.4
半田地区	28	11.4	28.4	3.4	16.4	1.4	2.4	2.4	42.4	54.4	3.4	4.4	5.4	1.4	4.4	6.4	10.4	2.4	8.4
成合地区	26	6.4	23.4	2.4	13.4	0.4	2.4	2.4	41.4	59.4	5.4	6.4	3.4	1.4	1.4	3.4	8.4	3.4	10.4
普山地区	14	15.4	32.4	2.4	11.4	1.4	0.4	1.4	46.4	59.4	6.4	3.4	2.4	1.4	1.4	2.4	8.4	2.4	5.4

地域の課題を知る・感じる機会については、「はんだ市報」の割合が最も高く、次いで「回覧板」、「近所の人との会話」という結果となっています。
また、過年度と比較して、「近所の人との会話」の割合が大きく増加しています。
年齢別では、10～20代の「SNS」の割合が高い結果となっています。

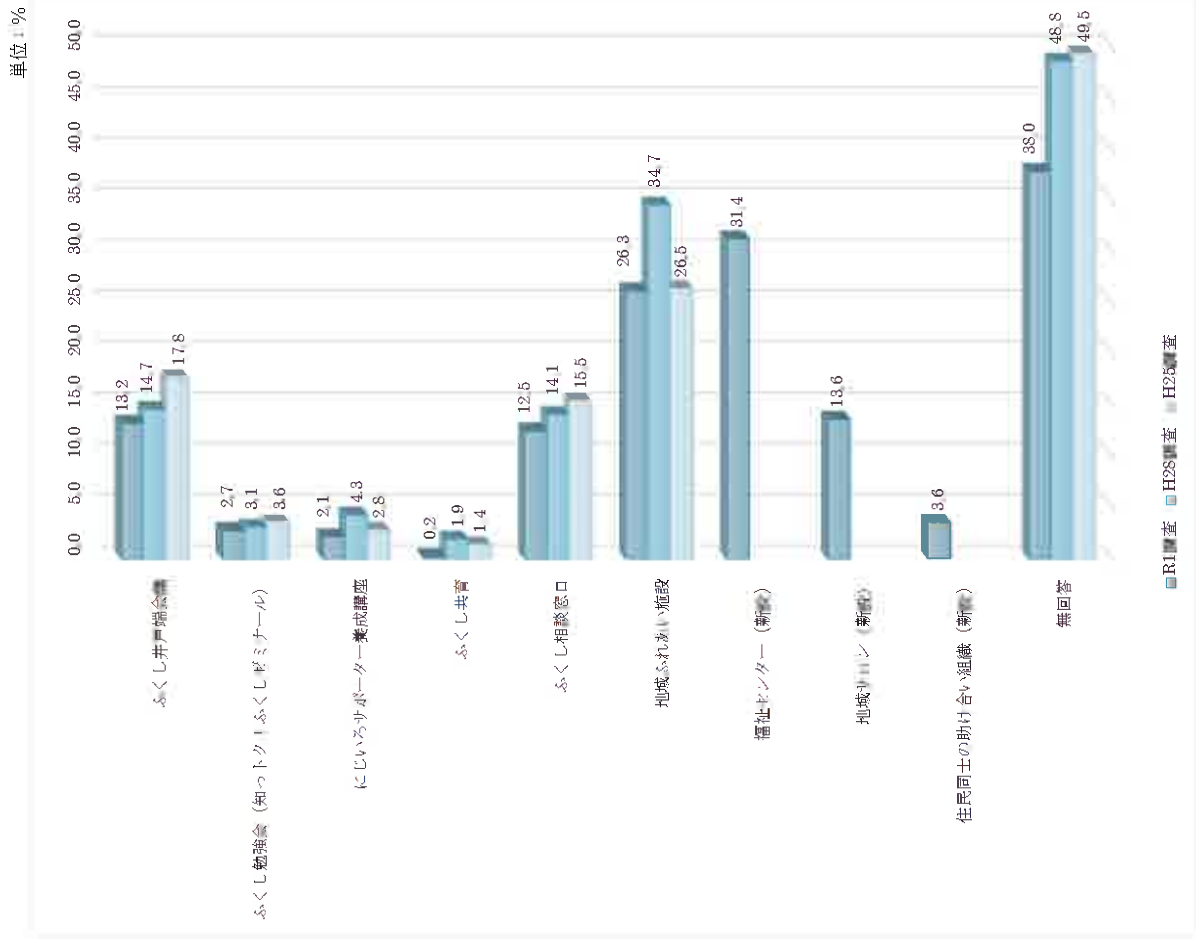
6 半田市地域福祉計画の重点施策について

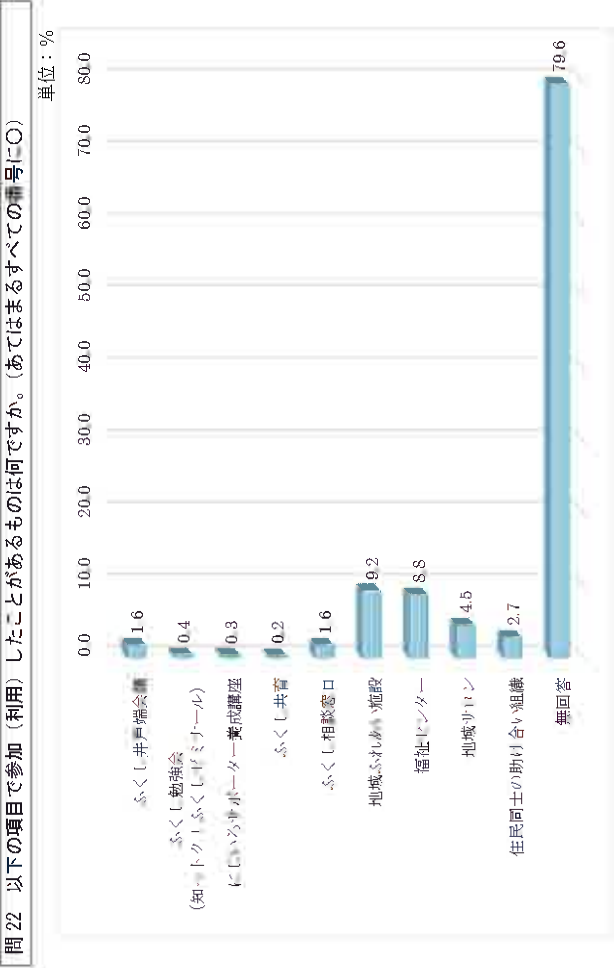
問 20 半田市地域福祉計画をご存知ですか。(1つの番号に○)



年齢別		居住地区別					単位：％						
		有効回答数（件）	どのくらいの計画か大体知っている	どのような計画か少し知っている	聞いたこと知らない	無回答	有効回答数（件）	どのくらいの計画か大体知っている	どのような計画か少し知っている	聞いたこと知らない	無回答		
10～20代	67	1.5	4.5	29.9	61.2	3.0	集島地区	107	4.7	5.6	48.4	37.4	3.7
30代	94	0.0	1.1	29.3	67.4	2.2	乙川地区	212	2.4	8.0	36.3	44.8	8.3
40代	124	0.0	6.2	32.6	60.5	0.3	早田地区	280	2.1	5.0	40.0	43.2	9.3
50代	124	0.8	5.6	32.0	58.4	3.2	成岩地区	207	0.0	5.8	33.8	53.1	7.2
60代	170	1.2	4.7	46.8	39.8	7.6	青山地区	146	0.0	6.8	30.8	55.4	6.8
70代	204	3.4	8.8	42.2	36.3	9.3							
80代以上	172	2.9	9.3	35.5	32.6	19.3							

問 21 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。(あてはまるすべての番号に○)





単位：％

有効回答数（件）	ふくし井戸端会議	（知）トク！ふくしゼミナール	にじいろサポーター養成講座	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	無回答
10～20代	67	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	0.0	96.5
30代	92	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	4.3	0.0	91.3
40代	129	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	7.0	0.8	86.0
50代	124	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	1.6	0.0	88.0
60代	171	2.9	1.2	0.6	0.0	0.6	8.8	9.9	2.9	81.9
70代	204	2.9	1.0	0.5	1.0	4.4	18.1	12.7	11.8	63.2
80代以上	172	1.7	0.0	0.6	0.0	3.5	10.5	12.8	4.1	72.1

単位：％

年齢別	有効回答数（件）	ふくし井戸端会議	（知）トク！ふくしゼミナール	にじいろサポーター養成講座	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	無回答
10～20代	67	11.9	1.5	1.5	0.0	6.0	11.9	17.9	9.0	0.0	58.2
30代	92	3.3	0.0	2.2	0.0	7.0	16.3	21.7	9.9	0.0	54.9
40代	129	11.6	1.6	3.1	0.0	10.9	20.2	31.0	15.5	1.6	40.3
50代	124	16.8	2.4	3.2	0.0	15.2	24.0	36.0	16.0	0.0	33.6
60代	171	17.0	4.1	0.6	0.0	17.0	31.6	38.8	14.0	4.1	30.4
70代	204	18.6	4.9	2.9	1.0	14.7	37.7	33.8	16.7	8.3	30.4
80代以上	172	8.7	1.7	1.2	0.0	11.0	26.7	30.8	11.0	4.7	38.4

単位：％

居住地区別	有効回答数（件）	ふくし井戸端会議	（知）トク！ふくしゼミナール	にじいろサポーター養成講座	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	無回答
亀崎地区	107	12.1	2.8	2.8	0.9	44.9	22.4	56.1	17.8	2.8	15.9
乙川地区	212	17.9	4.2	2.8	0.5	27.8	32.5	29.7	15.6	2.4	33.5
半田地区	280	13.2	1.1	1.1	0.0	1.8	37.9	31.8	11.4	5.0	38.6
成岩地区	207	12.1	1.9	2.9	0.0	2.4	16.9	27.1	12.1	3.4	46.9
青山地区	146	11.6	4.1	1.4	0.0	2.7	15.1	24.7	15.8	3.4	43.8

知っている・聞いたことのある地域の福祉基盤については、「福祉センター」の割合が最も高く、次いで「地域ふれあい施設」、「ふくし井戸端会議」、「ふくし相談窓口」という結果となっています。

居住地区別では、亀崎地区・乙川地区の「ふくし相談窓口」、亀崎地区・乙川地区・半田地区の「福祉センター」の割合が高い結果となっています。

6. 名 簿

半田市地域福祉計画策定委員会委員名簿（敬称略）

氏 名	所 属 名	
○鷲 野 林 平	社会福祉法人 半田同胞園	
森 川 武 彦	社会福祉法人 椎の木福祉会	
立 石 佳 輝	社会福祉法人 ダブルエッチジェー	
今 井 友 乃	NPO 法人 知多地域成年後見センター	
下 村 裕 子	NPO 法人 りんりん（りんごクラブ）	
柴 田 将 人	愛知県弁護士会	
溝 口 昭 弘	市民	
小 栗 照 夫	市民	
山 田 嵩	市民	
新 村 隆	福祉部長	事務局（市）
杉 江 慎 二 （前任：榊原 宏之）	福祉部地域福祉課長	
内 藤 誠	福祉部地域福祉課	
竹之越 夏 姫	福祉部地域福祉課	
間 瀬 直 人	福祉部生活援護課長	関係課（市）
沢 田 義 行 （前任：倉本 裕士）	福祉部高齢介護課長	
伊 藤 奈 美	健康子ども部子育て支援課長	
沼 田 昌 明 （前任：山口 知行）	健康子ども部保健センター事務長	
小 坂 和 正	社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 事務局長	事務局 （社協）
前 山 憲 一	社会福祉法人 半田市社会福祉協議会 事務局次長	
中 根 靖 幸	社会福祉法人 半田市社会福祉協議会	

○は委員長

半田市地域福祉計画コア会議名簿（敬称略）

氏 名	所 属 名	
杉 浦 郁 夫	福祉部地域福祉課	関係課（市）
邑 上 祥二郎	福祉部生活援護課	
池 尻 沙 織	福祉部高齢介護課	
内 藤 加奈子	健康子ども部子育て支援課	
薮 内 清 子	健康子ども部保健センター	
杉 江 慎 二 （前任：榊原 宏之）	福祉部地域福祉課長	
内 藤 誠	福祉部地域福祉課	事務局（市）
竹之越 夏 姫	福祉部地域福祉課	
榊 原 彰 子	総務グループ長	社 協
上 口 美智代	権利擁護グループ長	
澤 田 道	半田市包括支援センター長	
中 野 恵	半田市障がい者相談支援センター長	
松 本 涼 子	ボランティア地域ささえあいセンター長	
前 山 憲 一	事務局次長	事務局 （社協）
中 根 靖 幸	ボランティア地域ささえあいセンター	

半田市地域福祉計画策定作業部会 参加者名簿（敬称略）※令和元年度時

◆◆ 人財の確保・育成作業部会 ◆◆

氏 名	所 属 名	
○下 村 裕 子	NPO 法人 りんりん（りんごクラブ）	委員会
小 柳 厚	半田商工会議所	事業者等
岡 崎 将 司	社会福祉法人 椎の木福祉会	
松 見 直 美	知多半島観光圏協議会	
薮 内 清 子	健康子ども部保健センター	関係課（市）
中 根 靖 幸	ボランティア地域ささえあいセンター	社 協
榊 原 智 康	総務グループ	
榊 原 沙 恵	福祉部地域福祉課	事務局（市）
浅 井 隆 之	福祉部地域福祉課	

○は部会長

◆◆ 暮らしの安心支援作業部会 ◆◆

氏 名	所 属 名	
○今 井 友 乃	NPO 法人 知多地域成年後見センター	委員会
池 尻 沙 織	福祉部高齢介護課	関係課（市）
古 川 陽 一	福祉部生活援護課	
間 瀬 勝 信	総務部防災交通課	
藤 井 里 重	建設部建築課	
上 口 美智代	権利擁護グループ	社 協
對 馬 清 美	半田市包括支援センター	
内 藤 誠	福祉部地域福祉課	事務局（市）

○は部会長

◆◆ 防災・減災作業部会 ◆◆

氏 名	所 属 名	
○森 川 武 彦	社会福祉法人 椎の木福祉会	委員会
溝 口 昭 弘	亀崎思いやり応援隊	
榊 原 千恵美	社会福祉法人 太陽	事業者等
戸 枝 陽 基	社会福祉法人 むそう	
杉 浦 郁 夫	福祉部地域福祉課	関係課（市）
片 山 龍 一	総務部防災交通課	
百 武 雅 子	教育部学校教育課 指導主事	
松 本 涼 子	ボランティア地域ささえあいセンター	社 協
徳 山 勝	半田市障がい者相談支援センター	
浅 井 隆 之	福祉部地域福祉課	事務局（市）

○は部会長

◆◆ 就労支援作業部会 ◆◆

氏 名	所 属 名	
○立 石 佳 輝	社会福祉法人 ダブルエッチジェー	委員会
久 保 亮	一般社団法人 あいち福祉振興会 みらいカレッジ	事業者等
榑 原 康 仁	半田市シルバー人材センター	
鷲 野 林 平	社会福祉法人 半田同胞園	
鈴 木 美喜子	社会福祉法人 半田同胞園	
山 田 学	非営利特定法人 ICDS ちた地域者リポートステーション	
田 窪 英 樹	一般社団法人 JAWS	
野 田 卓 巳	ハローワーク半田	
石 川 健 二	有限会社 イシケン	
石 川 多 美	有限会社 ウェルハート	
橘 淳 史	株式会社 エヌ・エフ・ユー	
加 藤 学	加藤電機 株式会社	
石 澤 慎 吾	医療法人 宏友会	
杉 江 富 夫	寿産業 株式会社	
伊 藤 昌 生	知多信用金庫	
平 田 昌 章	日本郵便 株式会社 半田郵便局	
井 上 禎 充	日本郵便 株式会社 半田郵便局	
片 岡 達 郎	株式会社 MizkanPartners	
榑 原 慎太郎	株式会社 ヤマミ醸造	
内 藤 加奈子	健康子ども部子育て支援課	関係課（市）
古 川 陽 一	福祉部生活援護課	
中 野 恵	半田市障がい者相談支援センター	社 協
岡 本 弘 安	権利擁護グループ	
内 藤 誠	福祉部地域福祉課	事務局（市）

○は部会長

◆◆ 支援困難対策作業部会 ◆◆

氏 名	所 属 名	
○柴 田 将 人	愛知県弁護士会	委員会
深 谷 由美子	社会福祉法人 半田同胞園	事業者等
邑 上 祥二郎	福祉部生活援護課	関係課（市）
澤 田 道	半田市包括支援センター	社 協
小 島 寛	半田市障がい者相談支援センター	
竹之越 夏 姫	福祉部地域福祉課	事務局（市）

○は部会長

●令和5年度中間見直し時 名簿

半田市地域福祉計画推進委員会委員名簿（敬称略）

氏 名	所 属 名	
○鷲 野 林 平	社会福祉法人 半田同胞園	
森 川 武 彦	社会福祉法人 椎の木福祉会	
立 石 佳 輝	社会福祉法人 ダブルエッチジェー	
今 井 友 乃	NPO法人 知多地域権利擁護支援センター	
下 村 裕 子	NPO法人 りんりん（りんごクラブ）	
柴 田 将 人	愛知県弁護士会	
溝 口 昭 弘	市民	
小 栗 照 夫	市民	
山 田 嵩	市民	
竹 部 益 世	福祉部長	事務局（市）
杉 江 慎 二	福祉部地域福祉課長	
吉 澤 伸 博	福祉部地域福祉課	
清 水 太 士	福祉部地域福祉課	
榊 原 沙 恵	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	
長 谷 川 信 和	福祉部生活援護課長	関係課（市）
沢 田 義 行	福祉部高齢介護課長	
竹 内 健	福祉部健康課長	
三 輪 象 太 郎	子ども未来部子育て相談課長	
中 井 康 友	学校教育課指導主事	
小 野 田 靖	半田市社会福祉協議会 事務局長	事務局 （社協）
前 山 憲 一	半田市社会福祉協議会 事務局次長	
中 根 靖 幸	ボランティア地域ささえあいセンター	

○は委員長

半田市地域福祉計画コア会議名簿（敬称略）

氏 名	所 属 名	
村 上 裕 子	福祉部地域福祉課	関係課（市）
邑 上 祥二郎	福祉部生活援護課	
茶 谷 園 子	福祉部高齢介護課	
榑 原 晶 子	福祉部健康課	
佐 藤 章 貴	子ども未来部子育て相談課	
杉 江 慎 二	福祉部地域福祉課長	事務局（市）
吉 澤 伸 博	福祉部地域福祉課	
清 水 太 士	福祉部地域福祉課	
榑 原 沙 恵	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	
澤 田 道	半田市包括支援センター長	社 協
加 藤 恵	半田市障がい者相談支援センター長	
松 本 涼 子	ボランティア地域ささえあいセンター長	
前 山 憲 一	半田市社会福祉協議会 事務局次長	事務局 （社協）
中 根 靖 幸	ボランティア地域ささえあいセンター	

令和5年度半田市地域福祉計画心くし課題プロジェクト
参加者名簿（敬称略）

◆◆ 第2次半田市地域福祉計画見直し

&重層的支援体制整備事業実施計画◆◆

氏 名	所 属 名	
邑 上 祥二郎	福祉部生活援護課	関係課（市）
前 山 憲 一	半田市社会福祉協議会 事務局次長	社 協
加 藤 恵	半田市障がい者相談支援センター長	
中 根 靖 幸	ボランティア地域ささえあいセンター	
瀬 口 美 江	ボランティア地域ささえあいセンター	
長 谷 幸 男	ボランティア地域ささえあいセンター	
吉 澤 伸 博	福祉部地域福祉課	事務局（市）
清 水 太 士	福祉部地域福祉課	
榊 原 沙 恵	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	